

閉校記念誌

五
稜
中
學

函館市立五稜中学校

閉校記念誌

五
校

平成二十七年十月



閉校記念誌 五稜 目次



■卷頭特集

▽校訓・五稜三訓紹介

▽校章・校旗紹介

▽校歌紹介

■閉校に寄せて

▽卷頭言にかえて.....函館市立五稜中学校 校長 小川 弘

▽贈る言葉.....実行委員長 函館市立五稜中学校 P.T.A会長 田中 慎一

▽贈る言葉.....函館市立五稜中学校 P.T.A会長 田中 慎一

■五稜中学校のあゆみ

▽沿革.....函館市立五稜中学校同窓会 会長 小松 将人

▽沿革.....函館市立五稜中学校 生徒会長 工藤かれん

■旧職員紹介.....函館市立五稜中学校 生徒会長 工藤かれん

■思い出のアルバム.....函館市立五稜中学校 生徒会長 工藤かれん

■思い出を語る.....函館市立五稜中学校 生徒会長 工藤かれん

42 32 22 21 8

7 6 5 4 3 2 1



校章



・昭和三十七年三月六日 制定

- 1 外形波五稜郭の五角形を型どり、地域性を重視した表現
- 2 花は五稜郭跡の桜の花で、文化を意味し、自主勉励によって一層文化の発展向上を図る意味を表す
- 3 五稜郭を型どる線の間にある点は、つぼみを表し、若い萌え出る力が手をつなぎあい、友愛 協調の精神を表現

校旗



校訓

誠実調査協眞理探求

高丘中学校
九海鷗亭書

五稜三訓

1 昭和55年度

・学校生活における基本的な生活習慣の確立を図るため、「校内生活二十訓」を制定

2 昭和57年度

・生徒会生活委員会が「校内生活二十訓」を「生活十訓」に改変

3 昭和59年度

(1) 基本的生活習慣の全校的定着を図るために指導方針を検討

ア 「生活十訓」を精査し、重点指導事項を洗い出す

イ 重点指導事項洗い出しの具体的な取組を生徒会活動に位置付け、全校・全学級で話し合う

ウ 全校的に長時間かけ検討し、生徒一人一人の意識変革を促すよう働きかける

(2) 5月、生徒会総務局より「五稜三訓」制定の提案がされ、全学級、生活委員会、代議員会等、生徒会組織全体で討議

(3) 9月、代議員会で討議内容を集約、「生活十訓」から、三箇条の重点項目を抜粋

① 挨拶と会釈、そして品のある言葉づかいを身につけよう

② 校舎の清掃美化に努め、いたずらや落書きをしないようにしよう

③ 良識ある行動と協力的な態度をもって、自己を高めよう

(4) 10月、代議員会で検討した三箇条を生徒会総務局が、より簡潔に、より親しみのある表現にする

・ にっこり挨拶 明るい一日

・ 進んで清掃 きれいな学校

・ 自主的判断 みんなで協力

(5) 12月、59年度生徒会役員「五稜三訓」をパネル制作、南北両玄関壁面上部に掲示。学校生活の行動・生活の具体的な指標とする

五稜三訓

にっこり挨拶

明るい一日

進んで清掃

きれいな学校

自主的判断

みんなで協力

昭和59年 生徒会制定

五稜中学校校歌

昭和38年10月10日 制定
史蹟五稜郭、新川の清い流れのほとりにある我が校が四季折々に受ける立派な環境のもとに、温故知新、友愛協調、自主勉励、真理探求の精神を磨き、生徒の将来に栄養と発展を祈念し制定

誇りにみちて明るく

♪=108~112

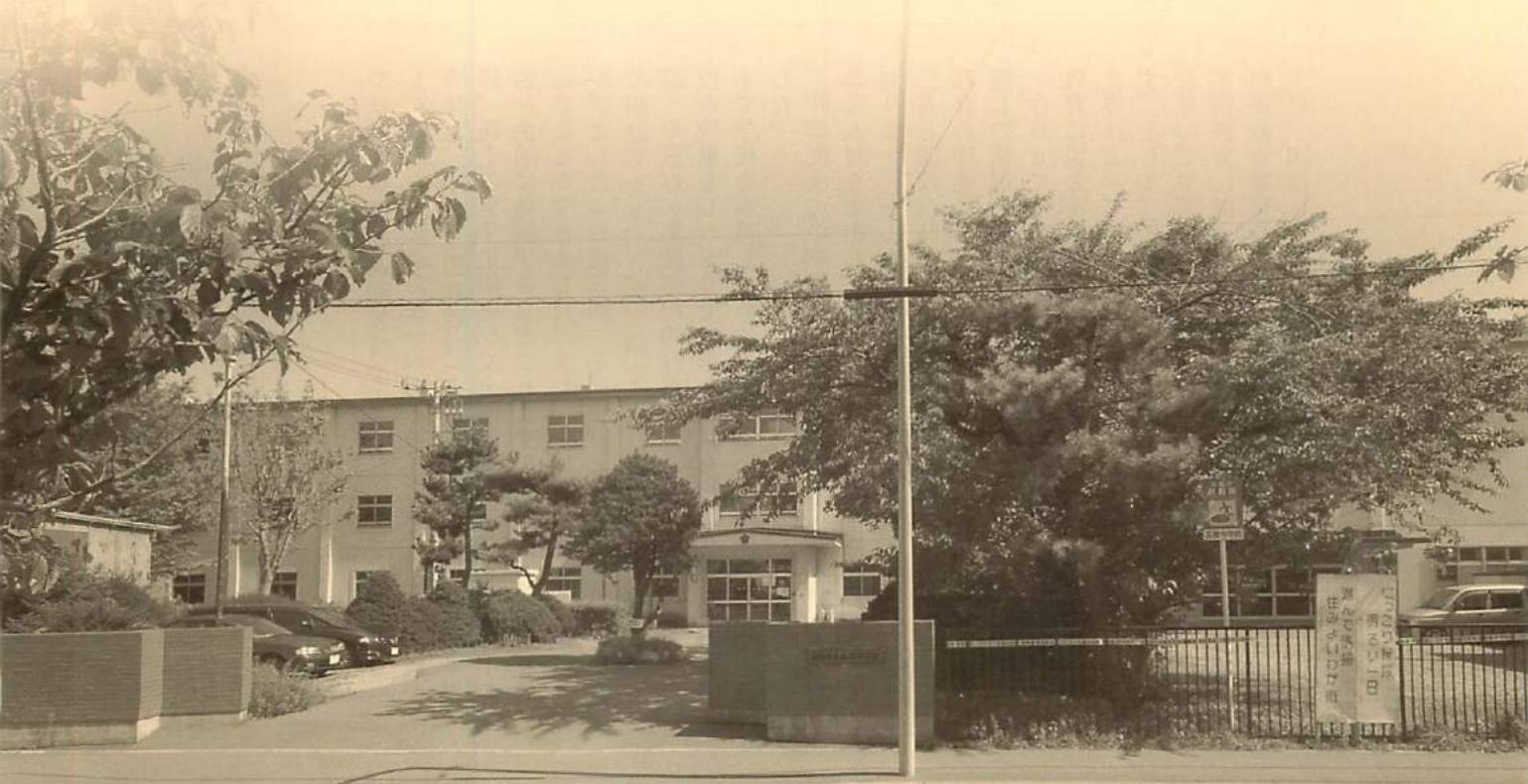
小島昌平作詞
酒井武雄作曲

1. ひんがしに こじょういだきて
2. さくらばーな しるしとあおぎ
たーたーなわる ごりょうがおーかは
とーもーがきの かたくむすーびて
わ こ う ど の いぶきにみーちぬ
う ち な ら す じしゅのかねーのね
み な か み に ふるきをたずね
ひ と す じ に まことをきわめ
あ ー た ー ら し き ひかりにたーちて
き ー づ ー き ゆ く りそ う の す ー が た
お お い な ー る ち から ー の ば さん ー
あ あ ー と わ に わ れ ら は え あ れ ら は え あ れ

二、
一、
ひんがしに 古城いたきて
たたなわる 五稜が丘は
若人の 息吹に満ちぬ
水上に ふるきをたずね
大きいなる 光に立ちて
新しき 力伸ばさん
さくら花 しるしと仰ぎ
友がきの 堅く結びて
うち鳴らす まことを窮め
ひとすじに 自主の鐘の音
築きゆく 理想のすがた
ああとわに われら栄えあれ

五稜中学校校歌

閉校に寄せて



とわに栄えあれ



函館市立五稜中学校 校長 小川

弘

「誠実・協調・真理・探求」の校訓のもと、地域の負託に応える教育を積み重ね、輝かしい伝統と校風を築いてきた五稜中学校が、五十有余年の栄えある校史を閉じる時を迎えた。時代の変遷や生徒数の減少など地域の実情を十分に踏まえながら、通学区域等の変更による再編で、隣接する大川中学校と桐花中学校の二校と統合し、平成二十八年四月より五稜郭中学校として新たな旅立ちをすることになりました。

創設当時を沿革史で振り返りますと、戦後の荒廃期から漸く立ち直ってきた頃、出生率が戦後最高の子ども達の中学進学の年と、函館の人口の北東部移動とが重なって昭和三十六年本校新設が決定。新設は決まれば校舎はなく、大川中学校の体育館で第一回の入学式が行われ、三学級が大川中・四学級が中央（今の凌雲）中の二カ所に分かれての中学校生活のスタート。二学期から中央中のすきま風が入り込む兵舎跡校舎で一学年七学級三百余名がようやく一つ屋根の下で生活。昭和三十八年の第三回入学式をもつて全学年十九学級九百余名がそろい名実ともに五稜中学校のあゆみが始まりました。この産みの苦しみがあつたからこそ、本校が「地域に根を下ろした強い絆を持ち、学業にスポーツに大いなる力伸ばさん」と理想の学校になつたと確信します。

五十余年にわたる本校教育の足跡を辿りますと、互いに理解し助け合う心を育む教育に力を注ぎ、函館野外劇参加や亀田川清掃、ノーマリー教室、小さな親切運動等に特色ある教育活動を推進してきました。スポーツ面

では、中体連各運動競技で市内各校から「五稜恐るべし」の声も聞こえた勢いのある時代を経て、本校最後の今年は、中体連野球競技で伝統の力を發揮しての準優勝、陸上の男子走幅跳びで全国出場を果たし、五稜中の名を全国に発信するなどこれまでの栄光の軌跡に華を添えることができました。また、生徒会活動でも、生徒会が制定した「五稜三訓」を、節目となる学校行事や集会で暗誦したり、この三訓をモチーフに「いじめ撲滅三訓」や旅行・集団宿泊的行事のめあてに活用するなど自校の校風をしつかり受け継ぐ意識を抱きながら、自らの手で学校を創造していく気概をもって勉学に励んできました。

昨年度までの卒業生を合わせると実に九千余人もの有為な人材を輩出し、同窓生は各方面で幅広く活躍されています。そんな本校も今年、学級数六、生徒數五百三名と開校当時の六分の一に規模が縮小し、本来の学校教育の推進にも支障をきたすなど閉校そして統合もやむ無しの状況に至りました。

今日まで、歴代校長をはじめ教職員の熱意、本校の教育に協力を惜しまない保護者や地域の方々の力強い支え等によって伝統が創られ継承されてきたものと思います。そして、これまで多くの方々の偉業を偲ぶとともに長年のご労苦に心より感謝を申し上げます。終わりに、本校教育に深いご理解とご支援を賜りました函館市、函館市教育委員会をはじめ、関係各位に衷心よりお礼申上げ、閉校にあたつてのご挨拶といたします。



★中
閉校に寄せて

歴史と伝統の継承

閉校事業実行委員長 P.T.A.会長

田中慎一

「教場」という校名は不思議な響きを持っていたに違いありません。校名が「函館市立五稜中学校」と決定したのは翌昭和三十七年のことです。しかも現在の校舎が完成したのが昭和三十六年十二月ですから、「校舎のない中学校」に入学したことにもなるわけです。新校舎に移転してからも未完成のため増築工事は続き、当時のモデルとして随一の設備を完備した理科室、家庭科室の他、体育館など、校舎全ての完成は、昭和四十年を待たねばなりませんでした。つまり一期生の生徒は在学中の三年間、ずっと工事の音を聞きながら勉学に励み、校舎内外の整備に汗を流しながら学校生活を送ったことになります。決して恵まれた環境とは言えない中でのスタートだったからこそ、困難も多かったからこそ、新しい学校を自分たち

今、ひとつの歴史が幕を閉じようとしています。しながら「誠実・協調・真理・探究」の校訓のもと、五稜中で学んだという誇りと伝統に培われた人間力は、道内外の各界で活躍する八九八一名の卒業生の中に脈々と生き続けています。若者を中心に、対人能力やコミュニケーション力の低下が叫ばれる今日、明るい挨拶で円滑な人間関係を築き、自らの判断力を研ぎ、仲間との協調の中で社会性を高め、この厳しい世の中を力強く生き抜いてくれるでしょう。そして「五稜三訓」に培われた精神は、形を変えながらも来年度新たにスタートする五稜郭中学校にも伝承されていくものと確信致します。

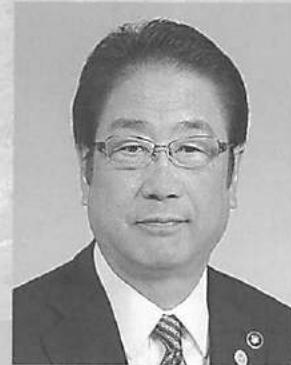
これまで本校の発展に多大なるご尽力を頂きました教育関係者を始め、PTA、同窓会、町内会、地域の皆様に心より厚く御礼申し上げご挨拶とさせて戴きます。

函館市立五稜中学校は、平成二十八年四月に隣接する桐花中学校、大川中学校との統合を以てその輝かしい五十四年の歴史に幕を下ろそうとしています。今日までの輝かしい歴史と伝統を築き継承してこられた歴代二十三名の校長先生、並びに諸先生方、保護者の方々に敬意を表し感謝申し上げますとともに、その足跡を記念誌として永く後世に残されますことは誠に意義深いものであり、関係各位の五稜中への想いに心から敬意を表します。

の力で創っていくのだという強い想いが生まれ、先生と生徒が、或いは生徒同士が強い絆で結ばれ、何者にも負けない自主・自立の精神が生まれる土壌を創ったのではないか。それが今日の五稜中学校の歴史と伝統の礎を築いたのではないかと、当時の学校生活に想いを馳せる昨日です。

函館市立五稜中学校の閉校によせて

函館市長 工 藤 壽 樹



函館を代表する観光地であると同時に、地元市民の憩いの場としてもその役割を担っている史跡五稜郭公園。

その五稜郭公園に隣接し、地域と共に歩みながら、本市のみならず、全道・全国に有為な人材を輩出してこられた、函館市立五稜中学校の閉校にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本校は、昭和三十六年に函館市立大川中学校田家分教場として発足し、昭和三十七年に函館市立五稜中学校として開校して以来、教職員の方々の並々ならぬご努力はもとより、地域の皆様の長年にわたる温かい御支援のもと、輝かしい歴史と伝統を築いてこられました。ここに改めて、皆様方の並々ならぬご尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表す次第でございます。

さて、本市におきましても、少子高齢化の進行と人口の減少、また人口移動による都市機能の分散、地域経済の低迷など、諸課題への対応が求められているところでありますが、地域経済におきましては、明るい兆しも見えてきているところであり、平成二十八年三月の北海道新幹線の開業を、本市の新たな時代を切り拓く起爆剤として捉え、各施策に取り組んでいるところであります。

また、こうした函館の街づくりを支える人材の育成は、重要な課題の一つであり、学校段階においては、ふるさとに根ざし、未来を切り開くたくましい人づくりを目指した教育を充実させることが何よりも大切なことを感じているところであります。

そうした中、これまで本校が校訓である「五稜三訓」や郷土への誇りを胸に、函館の街を愛し、街づくりに積極的に参画する子どもたちの育成に向けて、様々な教育実践を積み重ねてこられたことは、大変意義深いことだと存じます。

このような輝かしい歴史と伝統を積み重ねてまいりました本校も、この度、学校再編に伴い、その歴史に幕を下ろすことになりました。時代の流れとはいえ、かけがえのない母校の閉校は、本校を卒立った同窓生の皆様にとりましては、何事にも代え難い心の支えを失うかのようない寂しさが募り、そのことを思うと、万感胸に迫るものがあるのではないかと思思います。また、地域の皆様におかれましても、長年慣れ親しんできた本校に対する惜別之情はひとしおのことと存じます。

しかしながら、本校の雄姿は、多くの卒業生や関係者の方々の胸に深く刻まれ、脈々と生き続けるとともに、五十四年間という長きにわたり培われた輝かしい歴史と崇高な精神は、新生「函館市立五稜郭中学校」へと引き継がれ、一層醸成されるものと確信しております。

結びに、今日までの間、本校を支えてくださいました関係者の皆様に深く感謝申し上げ、また新たな五稜郭中学校へのご支援をお願いするとともに、関係諸氏のご多幸をご祈念申し上げ、閉校にあたってのご挨拶とさせていただきます。

函館市立五稜中学校の閉校にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本校は、昭和三十六年四月に函館市立大川中学校田家分教場とし発足し、翌三十七年四月に校名を函館市立五稜中学校として以来、五十四年の長きにわたり、輝かしい歴史と伝統を築いてこられました。

この間、本校を卒業された有為な人材は、道内外において活躍されるとともに、函館市の発展のためにご尽力をいただいております。

これもひとえに、開校以来、本校の発展に情熱を注がれた歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様のご努力と、地域の皆様方の献身的なご支援とご協力の賜であり、深く感謝と敬意を表す次第でございます。

さて、本校の校章は、五稜郭の城趾をモチーフとしており、地域性の重視や自主勉励、また、友愛協調の精神を表していると伺っております。

また、昭和五十九年に生徒自らが制定した「五稜三訓」

◇「につこり挨拶 明るい一日」

◇「進んで清掃 きれいな学校」

◇「自主的判断 みんなで協力」

は、現在も節目となる学校行事や集会等で、全校生徒が唱えるなど、自主・自立の精神が、今もなお、子どもたちの心に受け継がれております。

近年、本校は亀田川清掃などのボランティア活動や市民創作函館野外劇への参加、さらに、国際交流なども積

極的に取り組んでおりますが、こうした取組は、まさに創建の精神が脈々と受け継がれてきた証であると思つております。

このように輝かしい歴史と伝統をもつ本校が閉校しようとすると、これまで本校にゆかりの深い皆様におかれましては、愛惜の念ひとしおのものがあると存じます。

しかし、本校と大川中学校および桐花中学校が統合する新しい学校におきましては、心豊かに学び、共に未来のふるさとを拓く子どもの育成を目指し、三校のよき歴史と伝統を受け継ぎ、一層優れた教育活動が展開されいくものと信じております。

そして、五稜中学校魂は、「五稜郭中学校」へと継承され、同校の教育を礎として大きく発展し、羽ばたいていくものと確信しております。

結びに、今日までの間、本校を支えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げ、また、今後の五稜郭中学校へのご支援をお願いするとともに、校下各位の今後ますますのご隆盛とご発展を祈念申し上げ、閉校に寄ることばといたします。



閉校に寄せて

函館市立五稜中学校の 閉校にあたつて

函館市教育委員会教育長

山 本 真 也

五稜中学校での想い出



小生は生まれてから現在まで田家町で生活して参りました。新卒で函館市立深堀中学校に赴任したのが昭和三十七年四月でした。五稜中学校が創立した年度と同じで何かしら不思議な縁を感じました。何時か五稜中学校に赴任したいとほのかに思っていました。

昭和三十九年度に附属函館中学校に転勤して函館市内での勤務が続きました。当時の創立まもない五稜中学校ですが、函館市の中体連陸上競技大会では抜群の優秀な成績を納めました。小生は他校に勤務しておりましたが、田家町にある五稜中学校なので驚きと共にその成果をとても嬉しく思っていました。

やがて、小生の息子二人が五稜中学校に入学してお世話になりました。長男は吹奏楽で活動していました。函館地区大会で金賞を受賞し全道大会に出席しました。札幌の厚生会館の会場に応援で駆けつけたことを懐かしく想い出しています。次男は野球部に所属し活動していました。機会ある度に五稜中の保護者と共に応援に駆けつけたことも懐かしく想い出しています。

小生は、平成十一年に定年退職しました。そして平成十三・十四年度には五稜中学校の教育相談室の相談員として任用され、二年間お世話になりました。以前に描いたほのかな希望が退職後に叶つたと感じていました。平成十五年度から五稜中学校の評議員になり現在まで続いているです。

五稜中学校が創立した当時の田家町は世帯数四五〇位であり多くありませんでした。それから昭和三十年代に入つて、市営住宅A団地B団地とさらに道営住宅が建築されて、どんどん世帯数が増えています。昭和六十三年度に田家町会は各自治区と大同団結して新生田家町

会となりました。現在の田家町の世帯数は函館市認定で一四六四世帯（平成二十六年度）と結構多くなり、人口も増えました。ところが時代の流れでしょうか、少子高齢化に伴って生徒数の減少によりこの度五稜中学校も閉校となります。町内から五稲中学校が無くなるのは残念ですが、生徒の教育条件等を考えますと、理解し納得せざるを得ません。

今まで五稲中学校には、地域との連携で多大な協力をいただきました。ひとつは春の亀田川河川敷清掃活動です。千代田小学校の児童も一緒に永年にわたって参加協力いただきました。次に函館市の一斉清掃活動クリーン作戦です。全校全員参加協力の年度もありました。学校周辺も町内もとてもきれいになりました。また、町内百人一首かるた大会です。中学生の参加によって大いに盛り上りました。参加者の高齢の皆さん、遠く離れて暮らしている孫を想い出すのか、とても家族的な雰囲気で実施されました。さらに、新年に行われる町会の節分祭です。五稲中学校のボランティア委員会の生徒が毎年参加してくれました。昔の遊びを体験したり、手品を見たり、ある年度には五稲中学校吹奏楽部の演奏がありました。深い感動で大いに盛り上がったことも懐かしく想い出しています。このように地域に連携して各種の行事に参加した五稲中学校の生徒の皆様、諸先生、保護者の皆様に町会の役員一同を代表して、心より感謝申しあげます。ほんとうに有難うございました。

今後五稲中の生徒諸君は新五稲郭中学校におかれましても元気で五稲中で培われたボランティア精神や五稲魂を遺憾なく發揮し活動されることを期待しています。五稲中学校「サヨナラ」

町会代表 後藤信夫

新しい『五稜郭中学校』の創造に向けて

同窓会長 小松将人



北海道の高校教員として採用され、函館北高校教員として函館に戻り、平成十五年度から同窓会長として、同窓会入会式で挨拶をする機会があり、人生の意義、人間の価値観、高校生活の楽しさ等について、多くの後輩に語ってきました。人生に少しでもプラスになればと思い、失敗談も踏まえ、積極的な人生の選択をできるようアドバイスをしてきました。

しかしながら、その役割もなくなる寂しさを感じながらも、統合校の「五稜郭中学校」の生徒として新しい出発する喜び、期待感もあります。是非、統合する三校の生徒が仲良く、一つの目標にスクラムを組んで、新しい学校の土台づくりに貢献することを楽しみにしています。

最後になりますが、私の人生の中で出会った好きな言葉をメッセージとして送りたいと思います。皆さんには、どのように感じるか、考えるかは自由です。人生の色々な場面で悩んだ時に、立ち止まって考えるヒントに

この「人生は選択の連続」「未来投資」の意味をよく理解し、これから予測できない厳しい社会の中で、強く、たくましく、自分のためだけではなく、他人を良く理解し、社会貢献、世界貢献できる魅力的な人間になつてください。

大川中学校分校として開校し、史蹟「五稜郭」に隣接する中で、豊かな自然環境に恵まれ、築立った多くの先輩の歴史と伝統を引き継がれた五稜中学校が最終章を迎えようとしています。その当事者となる一五三名の生徒の輝き、頑張る姿に多くの感動と勇気を受けているのは私だけではないと思います。

「誠実・協調・真理・探究」の校訓は還暦を迎えた私の人生スピリットの軸であり、多くの人生選択、決断をした時の心の拠り所がありました。私自身、五稜中学校3年間は部活動、勉強、生徒会と本当に充実した日々でした。特に野球部での優勝、生徒会の他校生との交流では大きな刺激を受けたものでした。

決して、人生は運命的、宿命的なものではなく、自分の中で多彩な選択を決定します。後ろを振り返ると、自分だけの人生のレールを引いていて、時には直線的、大きく曲がりくねっていることもあるでしょう。自分一人ひとりの人生を一生懸命に積極的に生き抜いてください。

☆人生は選択の連続ですか？

なれば幸いです。

☆人生は選択の連続である！☆

『道』



生徒会長 工藤かれん

「五稜中学校の統合」それがはつきりとわかつたのは、去年、私が中学二年生のときでした。入学当初は、

「統合するかもしれない」とは聞いていたけれど、そのときの私は、「統合するにしても、もっと先の話だろう」と思っていました。今年に入つてから、閉校と統合へ向けての動きが着々と大きくなり、私の中でも、それに対する実感が湧いてきました。

一番大きな変化は、集会や行事、委員会に部活動、全てのことにも『最後の』がつくようになったことです。やつぱり最後となると、「寂しいなあ」という気持ちが強くなります。でも、その分だけ印象が深く、生徒や先生方一人一人の思い出に、色濃く描かれていくんじゃないだろうかとも思います。

五稜中では、毎年「生徒会テーマ」をつくってきました。今年のテーマは、『道』古きよき五稜の歴史を糧に『道』です。このテーマを決めるとき、どういうテーマがいいか、学級ごとに意見をききました。それをクラスの代表が評議員会の中で発表し合いました。そのとき多かったのは、『これまでの』や『終止符を』など、終わりを意味する言葉が入っているものでした。だけど考えました。「統合が決まり閉校するから、五稜中がなくなる。本当にそうだろうか。そんなことは、絶対ないんじゃないだろうか。今まで受け継がれてきた五十五年分の伝統や歴史は、なくなることはないだろう」という話し合いになり、言葉一つ一つの意味を真剣に考え、この

テーマに決まりました。

テーマには、「過去から今」「今から未来へ」つまり、今までの歴史も現在も全部を「糧」にして、次に新しい学校へと向かっていく。そんな意味を込めています。

私は、五稜中学校の最後の卒業生となります。母校がなくなってしまうのは悲しいけれど、五稜中生であったことにかわりはないし、先輩や先生方もふくめ、みんなで培ってきた五稜の伝統や歴史は、私の中で「消えることのない大切な宝物」です。

最後に私から後輩の皆さんへお願いがあります。これから、大川中学校、桐花中学校と三校が統合し、『五稜郭中学校』となります。全校生徒の数も多くなるし、新しい学校への不安は、大なり小なりきっとあると思います。だけど、みなさんは、この五稜の生徒です。そのことを誇りをもつて、新しい『道』へ進んでいってほしいと思います。



五稜中学校のあゆみ



五稜中学校のあゆみ

昭和36・4・1

39	38	37
3 12 10 24	4 3 12 6 27 26 2	3 12 6 21 19 15 18 27 22 17 26 20 26
10	5	4

- 函館市立大川中学校田家分教場として発足
- ・学級編成 一学年 七学級（三〇四名）
- ・中央中学校より沼山吉之助氏が分教場主任として着任
- ・教諭 九名・書記 一名・養護婦 一名
- ・校舎 函館市立大川中学校に三学級
- 第一回入学式
- ・生徒 函館市立千代田小学校、函館市立八幡小学校
- 函館市立柏野小学校の卒業生三〇四名を収容
- （男子 一六七名、女子 一三七名）

- 函館市立中央中学校（現・函館市立凌雲中学校）に四学級、外に職員室一教室を併置
- 父母と先生の会発足
- 開校記念日（～昭和三十七年度）
- 生徒会発足
- （男子 一六七名、女子 一三七名）
- 母の会結成
- 独立新校舎建設地鎮祭
- 大川中学校の三学級を中心中学校校舎に収容
- 校舎第一期工事着工
- 第一回運動会五稜郭公園で挙行
- 第一期工事検定（教室十五、放送室、保健室、北側便所）
- 新校舎への移転完了
- 新校舎移転式並びに第一回文化祭
- 校章制定
- 校名「函館市立五稜中学校」と決定
- 初代 沼山吉之助校長就任
- 五稜中学校開校式
- 体育館第一期工事検定
- 第二期工事検定
- （教室四、職員室、校長室、事務室、宿直室、用務員室、相談室、教材室二、職員便所）
- 第三回入学式（全学年 そろう）
- 開校並びに校舎落成記念祝賀会開催
- 開校記念日とする（～昭和四十年度）
- 校歌、校旗制定
- （教室四、職員室、校長室、事務室、宿直室、用務員室、相談室、教材室二、職員便所、廊下）
- 同窓会結成
- 第三期工事検定（理科室、家庭科室、暗室、展示室、ミシン準備室、付属廊下）
- 第一回卒業式挙行（男子一六二名、女子一四八名、計三一〇名）



五稜中学校のあゆみ



52	51	50	49	48	47	46	44	43	42	41	40
4	9	12	8	7	7	5	12	4	10	6	4
9	1	10	17	11	16	12	8	28	1	1	1

- 第二代 藤川光夫校長就任
女子生徒の標準服制定
第五期工事検定（美術室、音楽室、水洗便所）
みどり学園中学部二学級、的場中学校から移管
函館市道徳教育指定校委嘱（昭和四十三年）
プール完工
北海道道徳教育研究大会
開校記念日を地鎮祭の六月十七日と決定
第三代 三ツ谷毅一校長就任
北海道道徳教育研究大会
函館市道徳教育研究指定校発表
体育館増築工事検定
学校放送教育研究校委嘱（昭和四十五年）
温室完成（母の会寄贈）
テレビ教育開始
第八回道南放送教育研究大会
第四代 梶原四郎校長就任
第二十二回放送教育研究大会北海道大会
体育館男子更衣室設置
創立十周年記念式典挙行
P.T.A臨時総会（規約改正）
体育館女子更衣室設置
金道病弱・虚弱教育研究大会（みどり学園）
第五代 金沢浩校長就任
函館・亀田市合併記念生徒交歓会
新机・椅子入荷
留萌港南中学校との交歓会
武藏野音楽大学生による演奏会
ブール防犯灯・排水口完成
グランド赤土入る
みどり学園校舎落成
全道理科教育研究大会（本校会場）
第六代 斎藤正之校長就任
機械警備に伴う校舎管理開始





五稜中学校のあゆみ

58	57	56	55	54	53
11 9 5 . 4 11 . 6 1 . . . 10 9 7 6 . 5 . 1 10 8 7 5 . 4 3 12 5 . 12 9 11 8 5	4 26 8 1 21 29 14 6 9 2 1 1 27 10 3 28 6 24 13 14 12 4 21 13 1 20 25 22 21 7 18 30 20 27				

國際電信電話教室開催

体育館背面のタキロン修理
優勝旗・盃等陳列ケース P.T.A.より寄贈

LL教室完成

体育館水銀灯・二間廊下燈
グランド東側フェンス完成

みどり学園、道立養護学校として発足

階段踊り場の窓総サッシとなる
凍結防止用赤外線装置取付

第七代 村上健介校長就任

職員による下駄箱づくり開始

新堀ギター演奏会

(PTA主婦会主催大運動会) 全教室黒板塗装

校内チヤイム取付

シェル科学コンテスト全国一位
市長より優良PTA表彰受賞

市立連より優良 PTA 表彰受賞

開校二十周年記念体育大会

PTA生活部生徒登校状況観察
開校二十周年記念植樹祭

開校二十周年記念生徒会主催大運動会

創立二十周年記念式典挙行

創立二十周年記念文化祭

創立二十周年記念祝賀会挙行
校内緊急用マイク取付

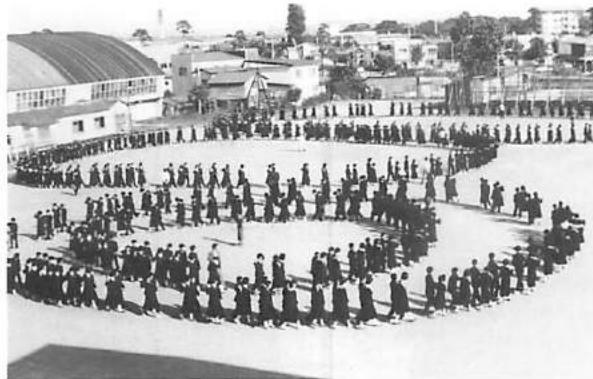
LU教授生徒と懇談（国際交流）

宿泊研修開始

第三回全道中学英語時間大会
第八代 寺岡守男校長就任

前庭巨木の整理

不規則シ二台となる（五台整備）



五稜中学校のあゆみ



	平成元年	63	62	61	60	59
3	2	63	62	61	60	59
5 4	11 7 5 4 12 11 9 8	7 4 9 6 3 12	10 9 6 5 4 26	61 4 10 12 11 6	60 1 7 1 30 23	59 1
30	27 15 20 15 1 20 8 22 15 30 20 26 25	28 30	24 1 29 23 12 19 16	4 26 25 18 1	7 1	6

音楽鑑賞教室
生徒会「感謝の会」を開催
生徒会「五稜三訓」を制定
五稜郭養護学校と交流開始
第九代 押澤正治校長就任
吹奏楽部五稜郭祭パレードに出席
アラスカ留学生四名来校
吹奏楽部、五稜郭養護学校を訪問
生徒会、交通安全街頭啓発活動
道立美術館の美術展鑑賞
体育館改修工事終了
「交通安全宣言の集い」開催
学級花壇づくり開始
第一回校外学習（函館史跡巡り）
第十代 高橋長一校長就任
第一期校舎大規模改修工事開始
(窓のサッシ化、床張り替え、防火扉、火災受信機取り替え等)
セントメリーズ大学文学部長講演
第二期校舎大規模改修工事開始(窓のサッシ化、床張り替え等)
校門前に押しボタン式信号機設置
卓球部全国大会に出発(島根県松江市)
セントメリーズ大学文学部長講演
在日留学生と全校生徒との交流会
はまなす国体炬火リレーに生徒十名参加
第二期校舎大規模改修工事完了
ハリファックス市教育関係者来校(授業参観と交流会)
カナダハリファックス市フェアビュー中学校と交流調印のため校長出発
第十一代 田嶋靖彦校長就任
ハリファックス市教育関係者来校(授業参観と交流会)
国際交流センターより留学生訪問
グラウンド全面改修工事開始
海外文通教室開催
グラウンド全面改修工事完了
開校三十周年記念体育大会(グラウンドで)





五稜中学校のあゆみ



五稜中学校のあゆみ



9	8	7	8	7	7	8	7	5
10	9	8	7	6	5	4	3	2
3	13	2	15	5	3	27	22	19

- 校舎前水道管改修工事
グラウンド転圧
- 函館市中体連卓球大会男子団体優勝、個人戦上位独占
- 函館市中体連水泳大会で二〇〇M自由型、個人メドレー優勝
- 全道中体連卓球大会個人戦に出場
- 函館地区吹奏楽コンクール大会（C編成で金賞受賞）
- ブーム解体工事開始（～二十五日整地終了）
- 全国中体連水泳大会出場
- 函館市壁新聞コンクールでデザイン賞受賞
- 函館市壁新聞コンクールで優良賞受賞
- HBC合唱コンクール優良賞受賞
- 家庭科準備室水道管破裂事故
- 函館市中体連卓球大会男子団体優勝、個人戦上位独占
- ボランティア龟田川河川敷清掃
- 全道中体連卓球大会個人戦出場（美唄市）
- NHK合唱コンクール銅賞受賞
- 地域ノーマリー教室開催
- 野球新人戦で優勝
- 防球ネット新設改修工事着工
- 第十五代 札内征男校長 就任
- 校門前フェンス取り付け工事開始
- 函館市中体連卓球大会男子団体三位、個人戦優勝
- 共同募金会から学校表彰受賞
- 吹奏楽コンクールで金賞受賞
- 全道中体連卓球大会個人戦出場
- 全道技家教育研究大会公開授業・分科会場
- 野球新人戦で準優勝
- 野球新人戦で準優勝
- 中一男子、ジュニアオリンピック陸上競技大会の一〇〇M走に出場（国立競技場）
- 牛乳パッククリサイクル試行（～七月）
- 一階トイレベース改修工事開始（～十三日）
- 一階トイレベース改修工事開始（～十二月）
- 函館市中体連陸上競技大会、上磯陸上競技場で開催
- 吹奏楽コンクールで金賞受賞
- 一階渡り廊下トイレ改修工事（～十二月）
- 函館市教育研究大会・公開授業
- 合同演劇発表大会参加





五稜中学校のあゆみ

16	15
7 .	8 .
6 .	7 .
5 .	6 .
3 .	5 .
22	25
29 23	29 26
15 28	15 26
22 3	22 6
18 6	18 10
25 6	25 10
13 9	13 28
19 24	19 28
11 .	10 .
12 .	9 .
1 .	2 .
16	17
24	26
20	21
29	31
23	1
15	21
28	21
22	21
3	21
18	21
6	21
25	21
13	21
19	21
9	21
24	21
10	21
28	21
10	21
9	21
28	21
8	21
10	21
6	21
28	21
10	21
2	21
6	21
4	21
9	21
26	21
1	21
3	21
2	21
26	21
6	21
8	21
2	21
25	21
5	21
31	21
1	21
21	21

八幡小交流授業
第十八代校長 田村順子校長 就任
市制八十周年記念交流会参加 (吹奏楽部出演)
第四十二回校内体育大会
トイレ改修工事開始
ハリファックス市へ二年生一名派遣
全道中体連柔道大会
被爆者体験講演会 (松尾美代子氏)
ユジノサハリンスク市へ三年生一名派遣
第四十二回文化祭 (4日)
二階男女トイレ改修工事開始
三階女子トイレ壁補修・床張り替え工事
薬物乱用防止教室 (一年生)
第四十三回校内体育大会
渡島支庁大会 (柔道)
性に関する教育講演会 (小葉松洋子先生)
日露交流ハバロフスク派遣 (三年生四名・二年生一名)
第一回放課後学習チャーター
千代田小祭り (吹奏楽部参加)
第四十三回文化祭 (3日)
ウラジオストク市へ派遣 (二年生二名)
全道国語研究大会授業公開
防火扉修繕工事
レイクマコーリー市へ派遣団引率 (校長・三年生一名)
市民スポーツフェスティバル大会出場
コンピュータ室前水飲み場改修工事
田家町会節分祭 (ボランティア部参加)
体育館電球取替工事
台風六号による臨時休校
ふれ合いタイム開始
渡島支庁大会 (柔道)
コンピュータ移設工事
水道管工事



五稜中学校のあゆみ



20	.	19	.	18	.	17	.
4	4	11	10	9	7	6	4
22	1	19	19	10	22	27	26

第十九代校長 畑野克行校長 就任

第四十五回校内体育大会

ウラジオストク市へ三年生一名

龟田川ボランティア清掃

グラウンドフェンス工事

三年野外劇参加

平和大使出発

ユジノサハリンスク市へ三年生一名派遣

第四十五回文化祭（～六日）

天津市へ二年生一名派遣

屋外時計贈呈式

子どもを守るパトロール

第四十六回校内体育大会

渡島支庁大会（テニス）

乗船体験（函館～大間）

体育屋根工事

第四十六回文化祭（～六日）

赤ちゃんだっこ体験（保健センター）

車椅子寄贈（小さな親切運動から）

レイクマコーリー市へ派遣・三年生一名

市民スポーツフェスティバル引き大会（女子の部優勝）

シンガポール訪問団来校

全国学力学習状況調査

第四十七回校内体育大会

全道中体連大会（陸上）

吹奏楽コンクールで金賞受賞

全道中体連大会（水泳）

ボランティア委員会盲学校若草祭り参加

第四十七回文化祭（～十一日）

全道社会科研究大会授業公開（～A）

第二十代校長 坂上範夫校長 就任

全国学力学習状況調査

薬物乱用防止講演会（水谷修氏）

第四十四回文化祭（～三十日）



五稜中学校のあゆみ



26	5	4	10	10	8	7	5	4	11	10	10	8	7	2	6	5	5	2	10	8	7	7	7	7	7	7	7	6		
•	10	22	20	4	25	28	26	31	11	24	1	1	18	5	26	26	4	1	20	12	3	1	30	29	27	17	14	30	27	3

- 開校五十周年記念第五十一回校内体育大会
いじめ撲滅集会
自転車鍵贈呈式（西警察署）
渡島支庁大会（テニス／十五日・剣道）
不審者から子どもを守るパトロール
耐震改修工事開始
吹奏楽コンクールで金賞受賞（B編成）
全道中体連大会（水泳／一日）
全道中体連大会（ソフトテニス／三日）
創立五十周年記念PTAバザー
創立五十周年記念式典（芸術ホール）・祝賀会
創立五十周年記念誌発行
耐震工事関係者へお礼の会
龟田川ボランティア清掃
吹奏樂五稜郭祭パレード
第五十二回校内体育大会
函館市中体連総合大会 女子テニス部優勝
全道中体連大会（陸上・水泳／二十九日）
PTAバザー
第五十二回文化祭
海外派遣（韓国）
学校再編に關わる学校視察
第二十二代校長 内城明良校長 就任
全国学力學習狀況調査
第五十三回文化祭
龟田川ボランティア清掃
第五十三回校内体育大会
全道中体連大会（水泳／二十八日）
全市一齊クリーン作戦（各町会の活動に参加）
PTAバザー
龟田川ボランティア清掃

第一位





五稜中学校のあゆみ

31	24	15	13	31	26	25	21	8	5	23	19	10	8	7	6	5	4	29	25	21	16	12	10	6	25	20	7	30	5
----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	---	----	----	---	----	---

第五十四回文化祭	函館市中学校英語祭 ユーモア賞	中体連総合大会 女子テニス部団体優勝
人権作文表彰式（全国表彰伝達）	中体連渡島管内大会 女子テニス部優勝	全道中体連大会（水泳）二十七日
進路学習（高校ガイダンス）	全道中体連大会（陸上）三十日 女子走高跳第1位	全道中体連大会（テニス）三日
第二十三代校長 小川 弘校長 就任	全国中体連大会（陸上・女子走高跳）二十一日	全国中体連大会（陸上・女子走高跳）二十一日
亀田川ボランティア清掃	PTAバザー	PTAバザー
中体連総合大会（野球部準優勝）三日	第五十五回文化祭	第五十五回文化祭
全道中体連大会（水泳）二十七日	三校交流学習（一年）	三校交流学習（一年）
全道中体連大会（陸上）三十日 男子走幅跳 第一位、八百メートル 第8位	海外派遣（韓国）	海外派遣（韓国）
閉校事業 座談会「五稜中の今昔を語る」開催	三校交流学習（二年）	三校交流学習（二年）
全国中体連大会（陸上）二十一日	函館市中学校合同音楽会（三校二年生合同合唱）	函館市中学校合同音楽会（三校二年生合同合唱）
P.T.A.バザー	閉校式典・五稜中学校の思い出を語る会	閉校式典・五稜中学校の思い出を語る会
第五十三回卒業式	教育講演会（閉校記念事業）	教育講演会（閉校記念事業）
平成二十七年度修了式	函館市立五稜中学校閉校	函館市立五稜中学校閉校





昭和46年度 開校十周年の旧職員



昭和36年度 開校当時の旧職員



昭和56年度 開校20周年の旧職員

旧職員 ||開校から五十周年まで||



平成13年度 開校40周年の旧職員



平成23年度 開校50周年の旧職員



平成3年度 開校30周年の旧職員

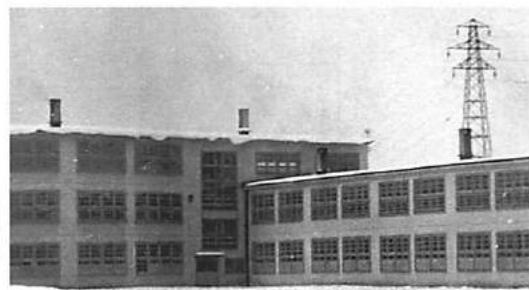
The background of the image is a photograph of a wide staircase leading upwards. The stairs are made of a light-colored material, possibly wood or stone, and are flanked by dark railings. The perspective is looking up the stairs, which leads the eye towards a bright, overcast sky filled with large, white clouds.

思い出のアルバム



変校舎遷の

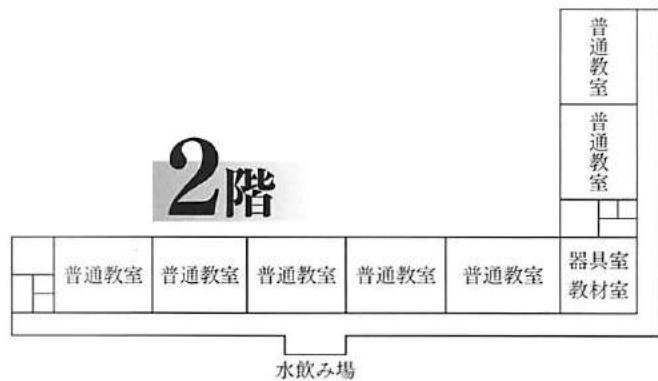
創立当時の校舎



3階



2階



体育館

1階

水飲み場
体育館渡り廊下

普通教室 普通教室 普通教室 普通教室 普通教室

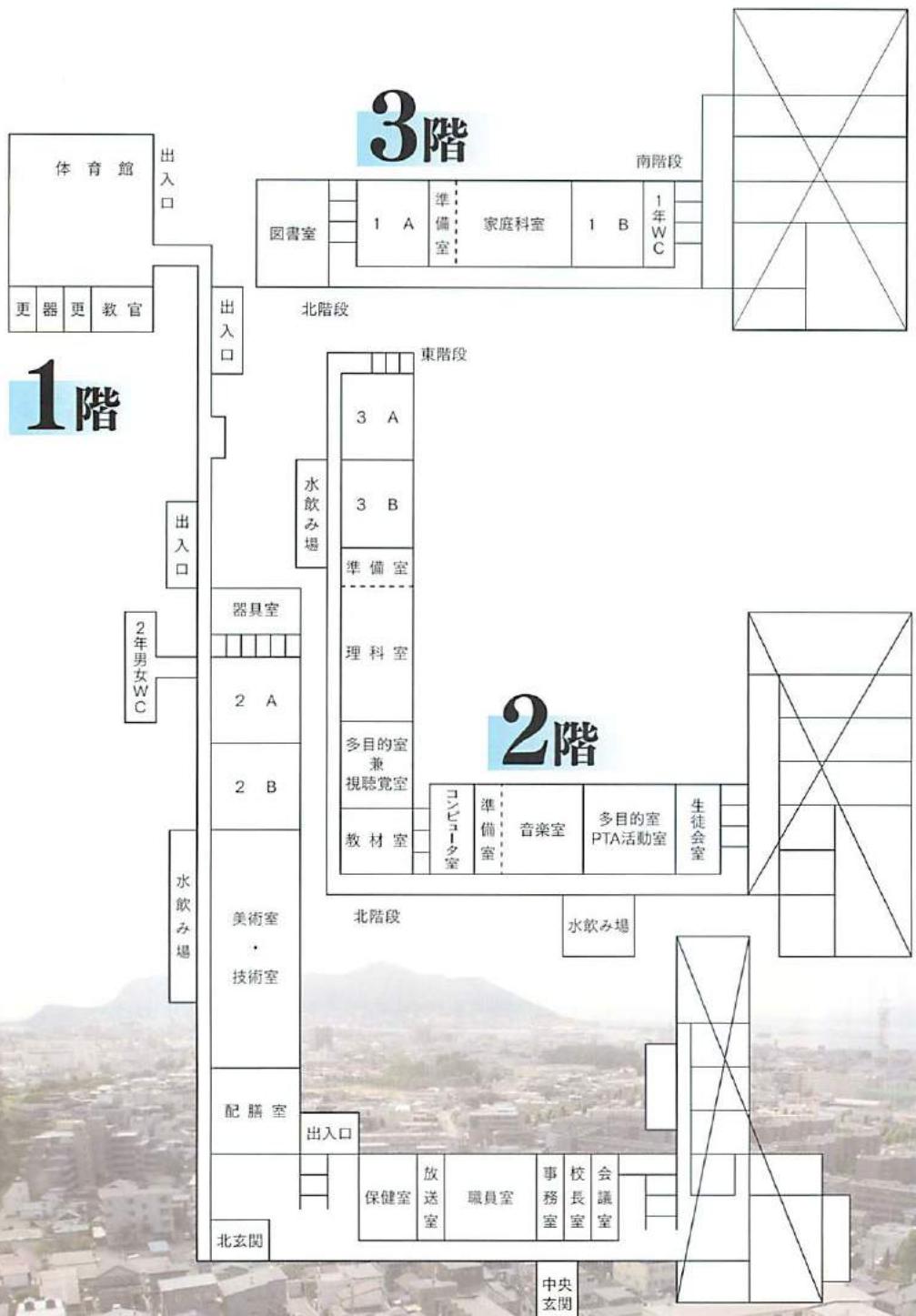
↓
便所

水飲み場



変校舎
遷の

現在の校舎





思い出のアルバム 入学式・校外学習



昭和36年 函館空港遠足



昭和51年 遠足



昭和52年度 入学式



昭和59年 遠足



平成5年 新入生歓迎会



平成14年度 入学式



平成23年度 入学式



平成25年度 対面式

思い出のアルバム

修学旅行・宿泊研修



昭和43年 修学旅行



昭和45年 修学旅行



昭和53年 修学旅行



昭和61年 宿泊研修



平成3年 修学旅行



平成21年 宿泊研修



平成25年 修学旅行



平成27年 宿泊研修



思い出のアルバム

体育大会・球技大会



昭和36年 五稜郭公園にて



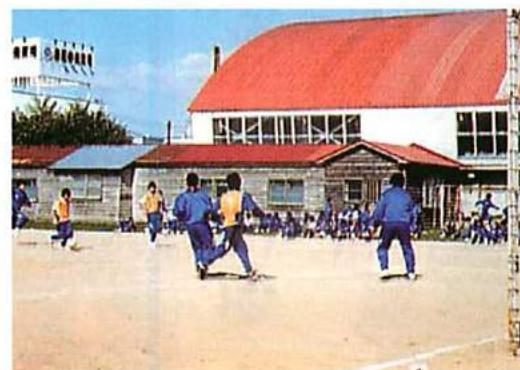
昭和37年 運動会



昭和42年 校内陸上大会



昭和60年 校内大運動会



平成7年 校内球技大会



平成9年 校内体育大会



平成19年 校内体育大会



平成24年 校内体育大会



思い出のアルバム

部活動



昭和38年 体操部



昭和54年 水泳部



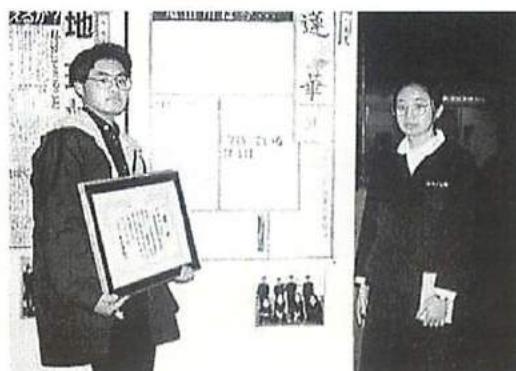
昭和58年度 生徒会役員



昭和61年 中体連野球大会



昭和63年 応援団



平成7年 壁新聞コンクール



平成10年 吹奏楽部



平成27年 壮行式



思い出のアルバム 文化祭



昭和37年 音楽発表会



昭和39年 文化祭



昭和47年 文化祭



昭和60年 文化祭



平成6年 文化祭



平成14年 文化祭



平成19年 文化祭



平成26年 文化祭



思い出のアルバム

授業風景・卒業式



昭和36年 授業風景



昭和40年 授業風景



昭和48年度 卒業式



昭和56年度 卒業式後



平成7年 授業風景



平成16年 野外劇参加



平成22年 新入生体験入学



平成26年 卒業式



ドローンでの人文字撮影（H27.8.25）



平成27年度 現教職員



1~3期生と五稜中生徒との座談会(H27.8)

思い出を語る



思い出を語る

思いつくままに



函館市立五稜中学校
第12代校長

堀井 透

定年退職の一年前、突然五稜中学校への異動通知に戸惑いながらも、教職の集大成をと少々高揚した気持ちで赴任した事、今、懐かしく思い出されます。

当時教育界は、日の丸、君が代等行政の強い指導と、それに反発する教職員団体との対立が激化、学校現場は、非常にきびしい雰囲気に覆われていました。

又、全国的に生徒指導上の問題が多く発生、当市でもその対応で先生方は超多忙な日々を送っていました。

そのため、安定し落ちていた学校を目指し、先生方には腹蔵のない自由活発な発言を求め、実態に立脚した指導課題を定め、全員が責任感を持ち、協力体制を築き実践に当たりました。

大変厳しい注文にも、先生方は快く受けとめ、全力をあげ頑張りました。お陰で安定した学校運営ができ、みんなで喜びを共にしました。

PTAの皆さんは連日のごとく学校に顔を出し、さまざまな助言、情報の交流、学校行事への協力、環境整備・美化等、大きな力添えをいたしました。

活発なPTA活動を通し「地域と共に歩む学校」の姿を見出すことができたと思います。

一年間の短い勤務でしたが熱心な先生方、協力的なPTAの皆さんと共に、楽しく実り多い日々を送ることができました。

教職を退き早や二十二年の歳月が流れ、教育現場を知る機会も少なくなりました。だが、生涯を教職で過ごした者とし、教育問題には無関心でいられない心境です。

今、教育現場には、さまざまな問題が山積していると云われています。その中でも、私にとって最も関心が高いのは「教師の多忙化」です。

「多忙のため教師は生徒に対応する時間がとれない」との事に大きな違和感を覚えます。

私たちの時代も、教師は大変多忙でした。今も昔も学校にはさまざまなお仕事が押し寄せています。

要は「学校で一番大切にすべき事は何か」の判断だと思います。

先生方には教育の専門職としてのプライドと、その英知を結集し、是非父母の期待に応える学校づくりに全力をあげ取り組まれます事を心から願っております。

思い出すこと



函館市立五稜中学校
第13代校長

金山 正智

平成五年、新米校長として五稜中学校に着任してひと月、ようよう周りが見え始めた頃であつたろうか。廣部七郎PTA会長が、「落ち着きましたか」と声をかけてくださった。折角なので、着任当初から気になっていたことをお話しした。「昼から校舎には陽がほとんど入らず暗い。校舎西側に密生している樹木がせつかくの光をさえぎっている。人が健全に成長するためには光が必要だ」と、樹木の一部伐採の必要性を、恐るおそる切り出した。当時は、いかなる理由があれ樹木は一本たりとも切ること相ならん、という風潮が広がっていた。常々校庭の花壇や校舎周りの花に手を入れてくださつている廣部会長には当然一蹴されるものと思っていたが、案に相違して「やつてみようじゃありませんか」と身を乗り出してこられて、今度はこつちが少したじろいだ。これを行するためにはいくつかの波風が予

想されたからである。

案の定、いくばくかの外部とのぎくしゃくした時間が流れ、やがて、その日が来た。父母有志の方々が次々に集まってきたが、その姿を見て少し顔がこわばった。皆さん、ロープ、搬送具で身を固め、中にはチエンソーハンドルを手にした方もいるではないか。木という木はすべてなぎ倒されました。

廣部会長が笑顔で説明をしてくれた。「父母の中には植栽の専門家がいるのでよく相談した。由緒ある木を残し、繁茂している雑木を処分することでお手入れを怠るとうまく伐採などの手入れを怠るとうまく育たない。光は、健康な学校に欠くことができないと同様、樹木にも必要なものである」と。

皆さんはときばきと言葉を交わしながら見事に作業を進める。役立たずの私どもは右往左往するばかりである。西側の廊下がすっかり明るくなつた。切り株はうまく処理され、腰かけとして使えるよう工夫されている。少し整備すると小公園に生まれ変われそうである。作業が終わる。少し整備すると小公園に生まぎりはまことにうまかった。

閉校を迎える五稜中学校の懐かしい思い出である。

函館市立五稜中学校
第14代校長

近野 功

五稜中学校に 思いを寄せて…感謝

「おはようございます！」

緊張した面持ちで玄関に入った私を出迎えてくれたのは、笑顔で居並ぶ生徒達の爽やかな挨拶でした。

今なお心に残る、着任初日の嬉しい一コマです。

五稜中学校には、普遍の校風が根付いておりました。その一つには、朝の挨拶運動と自主的な清掃、進んで実践するボランティアなど、生徒の主体的な活動があります。こうして人間尊重の理念に基づく教育実践が、教職員をはじめ多くの方々の熱意のもとに確実に受け継がれて来たのです。

改めて、地域、保護者そして同窓生を含めた学校関係者のご尽力に深甚なる敬意を表します。

五稜中学校は今、それぞれの人々の思い出を刻みながら、半世紀に渡る歴史の幕を閉じようとしておりま

す。

閉校は、特に在校生にとりまして、言い知れぬ寂しさと不安が入り混じる、複雑な心境であろうと思われます。

しかし、学校統合は、単に營造物の合体ではなく、人の出会いであり、そこから新しい世界が広がり自分自身を高めるチャンスもあるという、

身を高める陽転思考の発想が必要ではないかと考えております。

国際化が進む現代社会は、ますますグローバリストの育成が期待される時代でもあります。

将来を担う子ども達には、より広い心で友情を育み、協調し切磋琢磨し合う学びの環境を、自分達の時代で想像していくのだという気概を持つて欲しいのです。

学校の統合はまた、地域の融合でもあると思います。校区内の融和を図りながら、地域の教育力を高め、子どもの健全な成長を見守る環境づくりのために、保護者の皆様の行動力にも期待をいたしております。

私も「につこり挨拶、明るい一生」を人生訓の一つに加えて、五稜中学校でお世話をなつた方々に感謝をし、皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。

「五稜中学校、ありがとうございます」と

が行われ、「明るく、品のある」生徒の姿が思い浮かびます。

そして、平成九年十一月二十五日付で、社団法人「小さな親切」運動本部より「小さな親切実行章」を贈られました。その文面には、「貴

団体の親切なご行為は現代社会にほのぼのとした光を与えるものであります」と記されています。それらの活動を通して、人間としての望ましい生き方や地域社会の一員としての自覚を養うなど、「心の教育」の充実に資することができたのではないかと思われます。

ふと二十四時間テレビを見ると、愛は地球を救う「つなぐ時を超えて笑顔を」が放映されておりました。善意をつないでいくことは大事なことだと改めて感じました。この度、伝統ある三校が統合され、五稜郭中学校として開校されます。五稜中学校の閉校を惜しむとともに、その伝統の良さが統合校でも生きて働くことを祈念申し上げます。

すぐ思い出されるのは、校歌や五稜三訓、ボランティア活動等のことです。特に、ボランティア活動では、社会福祉法人「函館市社会福祉協議会」より、平成五年度から九年度までの五年間、「函館市ボランティア協力校」の指定を受けておりました。亀田川を美しくする会への参加、五稜郭公園の清掃、五稜郭養護学校との交流、ノーマリー教室の開催など

函館市立五稜中学校
第15代校長

札内 征男

五稜中学校に寄せて 閉校に寄せて



私は、平成八年度から九年度まで、「ひんがしに古城をいだく」この五稜が丘でお世話になり、とても楽しく過ごさせていただきました。退職後も、平成十三年の開校四十周年記念や平成二十三年の創立五十周年記念の諸行事に招かれ、その発展の当たりにしてまいりました。各記念誌にも、その校風や伝統のすばらしさが、見事に受け継がれており、うれしく思いました。

すぐ思い出されるのは、校歌や五稜三訓、ボランティア活動等のことです。特に、ボランティア活動では、社会福祉法人「函館市社会福祉協議会」より、平成五年度から九年度までの五年間、「函館市ボランティア協力校」の指定を受けておりました。亀田川を美しくする会への参加、五稜郭公園の清掃、五稜郭養護学校との交流、ノーマリー教室の開催など

思い出を語る

わが国の出生率の低下が著しいが、函館市においても同様であり毎年約三五〇〇余名の人口減少、二十五年後には十七万余名という人口問題研究所による将来推計が出されています。このような状況では中学校の統合ということもやむを得ないと思いまが、五稜中学校の校名が消え去ることの寂しさと時の流れを感じるところです。

五稜中学校には平成十年四月から十二年三月までの二年間の勤務であります。赴任当初を思い出すと校長室の窓から目に入るのはグラウンド。その向こう側に一際高い五稜郭塔がそびえています。箱館戦争に思いを巡らしながら新しい時代への移り変わりとなつた五稜郭の地。

当時の学校教育も大きな転換の時期であり、学校週五日制、総合的な学習の時間、選択幅の拡大、地域素材を生かすなど、特色ある学校づくりが求められている時期がありました。

また、校長室に目を転じると歴代の校長先生方の写真。北海道や函館市教育界の指導的立場で活躍された先輩の方々であり、緊張感と決意を新たにしたことがよみがえります。

五稜中学校の思い出



函館市立五稜中学校
第16代校長

鹿内 進

平成十一年、五稜中学校はスポーツにも学業にも秀でていましたが、とりわけ中体連野球大会でのことが思い出されます。その時の優勝校の筆頭にあげられ、大会では順調に勝ち進み準決勝にコマを進めました。準決勝では息詰まる熱戦、延長戦へ突入しましたが惜しくも敗れました。本校野球部員のあきらめない最後までやりぬく雄姿に感激したことが記憶に残っています。

早朝出勤、運動も兼ねての校区内巡回、登校していく生徒の笑顔と元気な挨拶によって学校生活のスタート。生徒からエネルギーをいただいた日々であつたように思い出しています。

私が五稜中学校に十七代校長として在職したのは、平成十二年・十三年度の二年間で、私の教職生活三十八間の最後の勤務校でした。

振り返ってみると、開校四十年経つ校舎は老朽化が進み、年次計画でトイレをはじめ普通・特別教室・体育館等の改修工事が進められていました。そんな中、保護者・地域の住民そして教職員が一丸となつて地域の特性を活かした学校づくりに取り組んだ生徒達の日常生活の道標となつた「五稜三訓」、函館市民野外劇場への参加、亀田川河川敷清掃のボランティア活動、市民芸術ホールを利用しての文化祭等を、今懐かしく思い出していました。

五稜中学校は、昭和三十年代から田家町地域の人口の急増により、昭和三十六年四月、中央中学校（現在の凌雲中学校）・大川中学校の通学区が田家分教場の学区となり、函館市立大川中学校田家分教場として開校しました。

閉校に当たつて



函館市立五稜中学校
第17代校長

佐野 武

当時の入学した一年生の生徒数は三〇四人、開校四十周年を迎えた平成十三年度の全校生徒数は開校当時の一年生の生徒数にも及ばない二九三名でした。

近年、この全国的な少子化による児童・生徒数の減少傾向は歯止めがきかず、今日の学校教育に多大な影響を与えています。

小中学校の統廃合が進み、この度

残念ながら五稜中学校にもこの荒波がおよせ、桐花中学校・大川中学校と統合することとなり、今年度を以てその名を消すことになったことは、誠に寂しい気持ちでいっぱいです。開校から今日まで、文武両面で大いに躍進してきた五稜中学校の教育推進に誠心誠意取り組んでこれた関係各位の皆様に心から敬意を表したいと思います。

次年度から桐花・大川・五稜の三校が統合し「五稜郭中学校」として、現在の桐花中学校の校舎で新年度をスタートすると聞いております。

新しい学校のスタートに当たり、不安や戸惑いもあるうかと思います。「教育は永遠なり」と言われますが、各統合校の良さを活かし、互いに支え合い、力を合わせて、新たな校風・伝統を構築していくください。そして明日の社会を担う生徒達の力となる教育の充実と発展を心より願っております。

函館市立五稜中学校
第18代校長

田村順子

校舎に花束を

五稜中学校は教職歴で一番長くお世話になった学校です。昭和六十三年四月に異動し、まず「コの字型」の三階建て校舎を一回り。とても愛着を感じ心引き締まる思いでした。三年生の学担となり、生徒は予想通り個性派ぞろい。難題も含め様々な葛藤有りで、頑張る姿勢や人間味、内に潜む悩みなども見せ、次第に打ち解けたことを思い出します。先日この学級の集まりが有りました。

各々の当時や現状を語る姿は、五稜中の卒業生であるという誇りと頼もしさを備え、社会人として懸命に活躍していることを物語っていました。一年限りの繋がりでしたが、心が熱くなりました。

平成五年七月の「南西沖地震」は甚だしい災害と衝撃をもたらしました。そんな中、五稜中体育館で被災地復興支援コンサート「ナウム・シユタ

ルクマンピアノ演奏会」を開催。当時の金山正智校長を中心に、ロシア語の横断幕やパンフレット作成、会場設定など何度も練り直し、職員や生徒が精力的に準備をしました。当日は保護者や地域の方々を交えた盛大な演奏会となり、中でも「剣の舞」は全身を使っての演奏で圧巻でした。三年生の「大地讃頌」の合唱披露も含め、演奏者の真心をしっかりと受けとめたものとなりました。指揮者の高瀬龍文さんや伴奏者の稻岡優子さんにも感謝です。再び、平成十四年四月に着任しました。力量有る教職員や常に物事を極め続ける生徒たち。その姿は教育活動の随所に見られました。教育論や指導方法を追求し、日常的に職員室で熱く論戦。最後には論戦者も見聞者も笑顔。

「授業参観は毎日」で、来校保護者に忌憚の無いご意見を頂きました。生徒指導部を中心に行なった記入の「個人ファイル」を作成。生徒個々の状況把握と課題解決に汗を流したことも貴重な思い出となっています。

最後に、保護者やPTA役員の方々、地域の皆様には多大なご支援とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。五稜中学校の閉校は寂しい限りですが、同時に新たな門出にお祝いの花束を贈ります。

閉校に寄せて

函館市立五稜中学校
第20代校長

坂上範夫

古く寒い校舎と対照的に、生徒たちは、学習に部活動に、先生方も支援・指導に熱心に取り組んでおりました。亀田川清掃・植樹・盲学校との交流等々のボランティア活動に対する意識は高く、野外劇にも多くの生徒が参加しておりました。部活動では野球部が市中体連大会で二年連続準優勝でしたが、父母・地域の方々一體となつての応援は熱く印象に残っております。また、吹奏楽部は吹奏楽コンクール地区金賞で全道大会に出場を三年続けておりました。反面、伝統ある卓球部が廃部、サッカーチームは他校との合同チームでの出場と生徒数の減少の影響も顕著でした。

平成二十年四月に着任してまもなく、強風のため校舎の二階の窓がそつくり落下したことがあります。また、市の耐震調査で、西側校舎が約百分の二度ほど傾いているとの指摘があり、校舎全体の補修と使用についての見直しが図られました。どこからか廊下にコウモリが飛来することもあり（私自身は二度目撃）、校舎は限界に近づいていたのかと感じることもありました。PTAの役員の方々からは、子ども達がより良い環境で教育を受けることが必要との観点から、新築が望ましいとの意

見を多数頂きました。

統合される学校は、校名が五稜郭中学校と伺っております。在職当時から、五稜中を五稜郭中として文書も届いていたこともありました。私も自身も新校名に大賛成です。創立五十周年祝賀会の際に同窓会の方々と「六十周年で会いましょう」と声高らかに唄った校歌を思い出し、寂しさもありますが、優れた教育活動を推進し続ける伝統を築き上げてきた五稜中学校の教育の精神を確実に五稜郭中学校に引き継ぎつつ、新たな校風と伝統を創生することを期待しております。

思い出を語る

私は、平成二十二年度から三年間
五稜中学校で勤務させていただきまし
たが、五稜中学校とのご縁は、遡る
こと今から、三十八年前、教育実習
生として五稜中学校で教員の経験を
初めてさせていたのが始まりでした
校長として赴任した当時は、教育実
習生時代と変わらぬ校舎の姿に、少
なからずのご縁を感じながら、先輩
諸氏の残された教育の実践を受け継
ぎ、よりよい学校づくりに邁進した

函館市立五稜中学校が、昭和三十六年、当時の函館市立大川中学校田家分教場として、その歴史を開始してから、五十四年にわたる長き年月を地域の教育の振興に努力されましたことに、深く敬意を表するとともに、このたび閉校の運びなったことは、誠に残念の極みであり、心からその足跡に感謝を申し上げるところであります。

ありがとう五稜中学校



函館市立五稜中学校
第21代校長

青木完二

いと思っていたものでした。三年間の思い出としては、何と立五十周年の記念式典や記念誌の作成でした。とりわけ、記念式典では第一回の卒業生を中心に、同窓生は皆さんが献身的に式典の準備や連絡の手伝いをしていただき、同窓生はもちろん、開校当時の恩師の先生方や歴代の校長先生など、多くの関係各位の皆さんにご臨席いただくことができました。思い起こすと、皆さんに胸を張れる式典を見ていただこうと校長として張り切って準備を進めたことが思い出されます。また、その日の夜に行つた祝賀会も、かかわりのあつた皆さんが、開校当時は施設が整つていなかつた校舎やグランド整備の毎日だったなどの苦労話や厳しかつた恩師のエピソードなどを披露していただき、笑顔があふれ心温まる会になりました。当時の職員も、少しでも五稜中学校にかかわつた皆さんに恩返しができたという思いで、安堵したのを覚えていました。

私が五稜中学校に赴任した時、生徒数も減少し各学年二学級の六学級と少し寂しい想いを抱きましたが生徒や教職員は生徒数の減少を感じさせない「活気と意欲」に満ちた学校でした。明るい挨拶が行き交い、良好な人間関係が醸し出す「落ち着いた雰囲気」が学校力向上の基盤となっていました。

五稜中学校は開校五十周年を終え、地域に根差した学校として不動の地位を確保していました。古い校舎の耐震化、トイレの改修、生徒玄関の新設など教育環境も充実していまし

平成二十五年四月 私は函館市立五稜中学校の校長として「いいよいよ残り二年。歴史と伝統のある五稜中学校」諸先輩の意志を受け継ぎ学校づくりに励もう」と決意を新たに校門をくぐりました。五稜中学校のシンボルの五稜桜が「肩の力を抜いて」とほくそ笑んで語りかけてくれました私は平成四年大川中学校に一般教員として赴任し、五稜中学校に野球部の練習試合に訪れたのが五稜中学校との関わりでした。その時はまだ五稜中学校が「大川中学校田家分教所」としてスタートしたことは知りませんでした。「生徒数も多く、とても活気のある学校だなあ」という

五稜中学校よ
永遠に



函館市立五稜中学校
第22代校長

内城明良

私は渋雲中学校が座館の振り出しだす。松川中学校と中央中学校の中で「統合・開校」です。教職経験の中とをとても誇りにおもつていて、五稜中学校の「閉校」は明るい未来への「輝きのある閉校」です。地域から愛され大切にされた五稜中学校。その魂で「五稜三訓」の教えは、五稜の風とともに新設校でも吹き続け、それを五稲桜が見守ってくれるものと確信しています。私たちは忘れません。五稜中学校を。永遠に。

を体育館の窓に掲示し、広く市民に周知を図っています。気を緩めることはできませんが、命や人権無視に関わる「いじめ」行為は見あたりませんでした。

閉校に向けての「統合準備委員会」も立ち上がり、函館市教育委員会も含め、意欲的な話し合いが進められました。特に、統合校の制服について、統合校に入学する現小学生やその保護者の意見を参考にするなどし、統合校にふさわしい制服が確定しました。また、校名についても、統合準備委員会の熱心な話し合いで総意に基づき「五稜郭中学校」となりました。

た。また、学校を取り巻く教育環境には、中央図書館や史蹟「五稜郭」芸術ホール、さらには特別支援学校などが点在し、これらを積極的に活用した活動にも力を入れてきました。五稜中学校には「五稜三訓」という教えがあり、全校集会や学校行事などで全校唱和をしています。また、今日的な教育課題である「いじめ防止」にも正面から取り組み、「いじめ撲滅宣言やいじめ防止スローガンをみんなで話し合って決め、その一部



思い出多き五稜中学校

函館市立五稜中学校
元PTA会長**廣部 七郎**

輝かしい伝統に育った五稜中学校。惜しくも今年度創立五十四周年で閉校になるということは誠に残念です。我家はグランドの横にあり、早朝から野球部の活気ある声が聞こえると、今日も頑張っているなと感じ、私自身も励まされていました。その野球部が今年度、函館市中体連で準優勝を成し遂げたのも、普段の練習の賜ものだと思います。

私の長女、長男、孫までお世話になつた五稜中学校。思い起こせば、

長男が中学校に入学の年に、創立三十周年を迎えた。当初予定されていたなかつたイベントを、急きよ行うこととなりました。記念誌の作成、創立三十周年記念のテレホンカードの作成、文化祭と同時開催した記念行事では、校舎二階の全教室を使い、生徒や父兄の作品を展示したり、食堂・喫茶・お茶席を設けました。初めての催しは、生徒達にとても好評でした。

校園には、五稜中学校の名前が刻まれた木碑があります。この碑は、五稜中学校が創立された時に建立されたものです。

一人ひとりのことを見直す機会として、生徒たちが自分たちの行動を振り返り、改めて自己反省する機会となることを、強く望みます。

また、生徒の自主性を大切にしており、体育祭・文化祭・修学旅行等の学校行事は、生徒を中心に生徒の手で実施されていますが、この方針は本校創立当時から貫かれており、

こちらも是非継続して欲しいです。

ドイツの作家、ハンス・カロッサの言葉に「魂のこもった青春は、そぞろたやすく滅びることはない」と、あります。本当に実り多い、豊かで美しいものにするには、そこに魂がこもつていれば、素晴らしい青春の思い出が記憶に残るということです。

生徒の皆さん、来年度からは五稜中学校の生徒として、今まで学んできたことを糧に、より立派な中学生成になつてください。

これらのイベントは、協力的な父兄の皆様に助けられて、すべて成功することが出来ました。この事は、今でも鮮明に思い出されます。

大川中学校田家分教場として開校した五稜中学校。当初は一学年五クラスでしたが、現在は一学年二クラスとなつてしましました。

しかし、生徒数が少なくなつてしまつた今の五稜中学校ですが、生徒一人ひとりのことを本気で考え、導いてくださる熱意ある校長先生を感じます。これ以上の教育環境があるでしょうか。私はこの環境が、五稜郭中学校になつても引き継がれるこ

とを、強く望みます。歴史のある五稜中学校が閉校になると、そのお話を聞いた時には、寂しく残念な思いで心が一杯になりました。

私が五稜中学校でPTA会長をやらせて頂いたのは、平成二十一年から二十三年までのわずか二年間でしたが、当時の仲間である役員の皆さん達とはとても仲が良く、たくさん想い出が残る活動期間を送らせて頂きました。

役員会が始まる夕方の遅い時間に学校に向かうと、部活帰りの子供たちがみんな「こんばんは」と挨拶をしてくれ、日々の生活の中での子供たちの自然な姿を垣間見られるとても貴重な瞬間でした。

色々な部活の子供たちがぞろぞろと学校から出てきて、たわいもない話で大笑いしながら家路につく風景を見る事は、私の日中の仕事での疲労を取り去り、心を穏やかにするには十分であり、非常に楽しみな時間

でもあつたのです。

文化祭では、子供たちに喜んでもらおうと、役員のお父さん・お母さんとで「やき鳥」を焼きました。田家町会から焼き鳥の焼台をお借りし、肉は学校の斜め向かいのお肉のつしまさんから購入し、学校隣の串やすずやさんからは、お店で使用している秘伝のたれを無償で提供して頂きました。

五稜中学校の思い出

函館市立五稜中学校
元PTA会長**益井 基**

地域の中だけですべて準備し、それに手を加え子供たちに提供すると言う、まさに「地元が子供を育む」そういうイメージで文化祭を楽しみました。

自分が住んでいる町を大勢の子供たちが通学し、楽しそうにふざけ合つて走り回つているような毎日がある環境が理想だと思うのですが、時代の流れには逆らうことができず、大切な学び舎が無くなります。

しかし校舎という形は無くなりますが、「五稜中学校を卒業した」、「携わった」という人の歴史は無くなりません。

小さいころから一緒に成長した地域の友人同士は、自然と深い絆で結ばれているのです。

ここで成長していく子供たちや地域の大人たちにも、五稜中学校の思い出は深く心に刻まれ、未来永劫、忘れられる事はないでしょう。

これを大切な記憶として心に留めておきたいものであります。

思い出を語る

閉校によせて



函館市立五稜中学校
前PTA会長

対馬 浩

数年前より話には聴いておりました、大川中、桐花中、本校との三校の統合が、いよいよ現実となりこのように閉校式典を迎える時となりましたことは、とてもさみしく残念な思いです。顧みますと、私がこの地に越してきたのは二十三年前になります。確かに当時の生徒の朝の通学の列に比べますと、今は随分短くなつた気がします。本校には現在二十九歳になる長男を先頭に四人の子弟たちを、十年間にわたつて育てて頂きました。全員が野球部に所属し、優秀な先輩、後輩、そして同期の仲間に恵まれて、中体連では優勝一回、準優勝一回、三位が一回と、はなばなしの成績を残しておりますが、レギュラーを取れたのは一人だけです。

その年は残念ながら一回戦敗退でしたが、その都度応援に忙しい日々を過ごさせて頂きました。こうして振り返りますと、昨今のことのように思えます。文化祭で初めて大勢の人前で緊張して、音痴なギターを聞かせた子、校内合唱コンクールでソロパートの入りをとちつてしまつた子など、思い出は次々と甦ります。このように沢山の経験を積ませて頂きながら、子供たちは日々成長させて頂いたのだと思いまます。この場をお借りしまして、改めてご指導頂きました先生方に感謝申しあげます。本当にありがとうございました。五稜中学校が創立五十四周年と聞いて、偶然にも私とほぼ同じ時代のなかで月日を重ねて来たのだと感慨深く思います。人の人生に例えると、世の中の色々ないきさつや道理などを少しずつ理解して、さあこれからもうひと踏ん張りするかという時期ではないかと思いますが、これもひとつの時代の流れなのかと受け入れなければなりません。同窓生の皆さんにおかれましては、大変残念にさみしく思うことでしょう。しかし、この学び舎で培つた心と体

思ひ出します。文化祭で初めて大勢の人の前で緊張して、音痴なギターを聞かせた子、校内合唱コンクールでソロパートの入りをとちつてしまつた子など、思い出は次々と甦ります。この場をお借りしまして、改めてご指導頂きました先生方に感謝申しあげます。本当にありがとうございました。五稜中学校が創立五十四周年と聞いて、偶然にも私とほぼ同じ時代のなかで月日を重ねて来たのだと感慨深く思います。人の人生に例えると、世の中の色々ないきさつや道理などを少しずつ理解して、さあこれからもうひと踏ん張りするかという時期ではないかと思いますが、これもひとつの時代の流れなのかと受け入れなければなりません。同窓生の皆さんにおかれましては、大変残念にさみしく思うことでしょう。しかし、この学び舎で培つた心と体

ありがとう五稜中学校



函館市立五稜中学校
旧職員

安井 孝

昭和三十八年四月、新卒で新校舎になって二年目を迎えた五稜中学校に採用されることになった。

この年は全国選抜高等学校野球大会で北海道代表として出場した北海高校が初の準優勝に輝き沸き返っていた時でした。

住む所も決まらず、とりあえず親類の家から通勤することにし教員としてのスタートを切りました。

とにかく生徒思いの先生になろう。熱意だけは強かつたが新米教師にとっては甘くない現実が待つていました。

担任として思うようにいかない学級経営など失敗も数多く、そのため学生だという誇りを胸に、更なる努力を続けてほしいと願います。これまでの長きにわたりご尽力頂きました先生方、職員の方々、地域の皆様に心より感謝申し上げ、閉校に向けての言葉とさせていただきます。

五稜中学校は当時、新設校として学習やスポーツにその他全ての活動

に積極的、意欲的に取り組む気風にあふれています。

職員や生徒、父母そして地域との結束が固く、学校を力強く支えていました。

今の時代と違つて、日曜日直、夜の宿直という勤務態様があり、新米の私は月に半数以上の宿直を引き受け、昼も夜も学校というような生活でした。

こんな日常がかえつて職員間の堅いきずなを生み、互いの信頼や連携に繋がつていつまであります。

市内中学校では最初となるプールが建設されることになり、その配色の相談を受けたり、水泳部の指導を任せられました。中体連での優勝を課せられ、夏休みはプールで合宿するなど必死だったものです。

又、全校あげての大行事だった運動会では何日も前から夜通しでペニヤ板十二枚の大看板を作成し、みんなで校舎の壁に掲げたりなど、存分に働かせていただき、大会を盛り上げたこともなつかしい思い出となっています。

その後、退職するまでの長い教員生活の中で、自分の原点がこの時代に育てられ形形成されたものと感謝しています。

五稜中学校、本当にありがとうございます。



函館市立五稜中学校
旧職員

輪島陽子

私は、五稜中学校で教員生活をスタートさせました。初任校であったので、教員の仕事の基本は、当時の五稜中学校で共に働かせていただきたい方々から教わりました。中でも「五稜三訓」は、大切なことがわかりやすく表現されており、学級経営や生徒指導の際、いつも心によぎり助けられている言葉でもあります。

私が五稜中学校で教わったもう一つは、行事に本気で取り組む姿勢でした。体育大会、文化祭など、どの学校にもある当たり前の行事でしたがが、当時ご一緒にさせていただいた先生方の熱気、生徒以上に本気で楽しむという姿勢を目の当たりにし、「教師とはこういうものなのか」と知りました。他校へいってからも、体育大会の練習が始まる頃になると、イヤリレーを思い出します。その時期が来ると、イヤに乗る担任陣は給食時間に居心地の悪い思いをし

れるのも、いつも五稜中学校の生徒たちです。街中で「先生！」と声を掛けられ、当時の生徒の近況や出てくる単語の懐かしさは群を抜いています。五稜三訓、二間廊下、蝙蝠寒い体育館、職員室前のテニスコート、そして当時の先生達のお名前。

近年、街中で生徒と会うと、必ず話題となるのが「閉校つて、本当？」という質問でした。公式に発表されても、まだ、どこか信じられないという表情で聞かれます。卒業後、全く足を運んでない生徒にとつても、母校が変わらずにあるというだけで安心感に繋がっていたのだと実感します。

生徒と同じく、自分にとつても母校のように感じる五稜中学校の閉校は寂しい限りです。しかし、これらも卒業生を始めとする関係の方々の心の支えとなることは、変わらないと確信しています。

ました。「オレが一口食べる度に、嫌な顔なんだよ：」「ウチもです：」などと笑いながら話していくことが懐かしく思い出され、そして、「今年はふつうに給食を食べても大丈夫」と心の中で確認してしまいます。

初めての卒業生を出したのも、五稟中学校でしたから、教え子が就職し、二十歳になり、結婚し、親にな



函館市立五稜中学校
旧職員

佐藤伸幸

函館市の中心部に位置していながら、本当に純朴な子ども達が集う学校、それが五稜中学校です。私は、開校五十周年記念式典で日頃の学習の成果を思う存分發揮してくれた姿が、今でも忘れることができません。会場となつた芸術ホールに響き渡つた「五稜三訓」。そして、全校生徒の力を集結させ、式典に参加されたすべての方に感動の気持ちをこめて歌つた記念合唱。そこには至るまでの活動の中心は集会活動でした。毎月行われた集会活動で培われたのは、進んで取り組もうとする自主性であつたり、集会に参加して目的を達成しようとする、集団の一員としての自覚であつたり、長い時間をかけて積み重ねてできあがつた、集団としての大きな力であつたと思います。

気になるものです。中体連各種大会をはじめ、色々な場面で五稜中学校の生徒が頑張っている姿を見ると、いつも自分の学校のように応援したくなつたものです。当時の生徒はもういませんが、声をかけると届託のない笑顔で返事をしてくれる。そんな実にめんこい子ども達が五稜の生徒なのです。校風なのが地域性なんかは分かりませんが、その魅力は今

その原点はどこにあるのだろうと考えてみたら、生徒玄関に掲示されている「五稜三訓」にたどり着きました。「○につこり挨拶明るい一日○進んで清掃きれいな学校○自主的判断みんなで協力」。この校訓が脈々と受け継がれ、現在の五稜中学校があるのだろうと思います。そんな素敵なお学校で勤務できること、そして、純朴でめんこい子ども達に出会えたことを本当に嬉しく思います。いいよいよ平成二十八年三月をもつて、五稜中学校の長きに渡る歴史が幕を下ろし、新たに五稜郭中学校としての、希望に満ちた日々が始まります。新天地での皆さんのお活躍を大いに期待しています。

五稜中学校から転出して三年になりますが、やはり母校のことは大変

思い出を語る

平成三年春始まつた、五稟中学校での教職生活は教員としての青春時代の一ページであつたのではないかと思ひ出されます。それまで小学校勤務をしていた私が、中学校勤務という新たな世界へ歩を踏み出しました。まだ二十代後半、結構な緊張感をたずさえ校門をくぐつた思いが、心のどこかにしまわれています。

校庭には春は桜の花が咲き、秋には今は伐採されました銀杏の木々が、黄金色に輝いていました。その落ち葉が通り一面をまばゆく染めていたことが記憶に残つております。三階の窓から、その景色を見ると住宅地というより、気品のある瀟洒な通りを思い浮かべる何かがそこにありました。その五稟の清楚な雰囲気が感じられる空気が好きでした。また、当時はまだ学年四～五クラス有り、校舎にグランドに人がたくさんあふれていました。狭い体育館があつぱいになつていたように感じられました。



函館市立五稜中学校
旧職員

信田博之

あるとき、国際父流で外国の著名なピアニストが来校し演奏会を開くことになりました。私は会場の設営などを担当しておりました。本番の時そのピアニストがものすごい勢いでピアノのペダルや床を踏みならすので、簡易ステージのボルトの軋みが体育館に響き渡りました。会場係として演奏中ステージの下に潜り緩んだボルトを懸命に音が出ないようには押さえていた記憶がよみがえります。素晴らしい演奏を近々の真下で聞けたのもある意味思い出と言つてよいのではないでしょうか。

七年間の在職で卒業生を三回出させていただいたことも、大変ありがとうございました。中学校の教員としてのイロハを知ることができた五稜中学校での生活は、自分にとって大きな財産となりました。生徒と真剣に、進路指導や生徒指導を通してこれからの中学校での将来や生きることについて共に考える場でもありました。当時の教え子は現在、あの頃の自分の年齢より、すでに上か同じ程度になっています。未熟な勢いだけの教師でしたが、あの子どもたちが時代の中心となり社会で活躍していると思えば、教職の素晴らしいが身に染みます。五稜中学校は閉校になりますがこの校舎で学んだことは皆の体に心にしっかりと刻まれていると思います。あの七年間に改めて感謝の思いを抱く今日の日です。ありがとうございました。

五稜中学校の思い出



函館市立五稜中学校
同窓会

山崎正吉

先輩、同級生も優秀で陸上・卓球など様々なスポーツ活動で、また英語のスピーチコンテストや作文・絵画など文化的な活動で優秀な成績をおさめていた。出身小学校の間ではなくそれらを超えてクラス間で競う、そんな雰囲気があった。そんな仲間だから卒業してもクラス会や同期会などが今でも続いているのだと思う。思い出の中核である五稜中学校がなくなることは残念だが、きっと卒業生のそれぞれが中学校生活を大切に思い出として記憶し続けることだろう。

私が初めて五稜中学校と関わったのは、小学校の時にスキー場として遊んでいた場所に中学校ができるというニュースからだった。私たちは二回生として未完成の校舎に入学したのだが、一回生は校舎がなく、幾つかの中学校に間借りして授業をし、苦労していた。また、私たちにも施設、設備が不十分で、体育館がなかつたため、体育の授業を通じ教室や廊下で行っていたことを思い出す。

そんな中でも、個性的な先生が優秀な先輩、同級生との交流が様々など不便を感じさせずに済んだ。ある先生は、教科書の内容を超えた学習プリントを担任外のクラスにまで配布してくださり、それを学習したかどうかチェックまでしてくださった別の先生は、高校で学ぶ論語の一節を自分の人生観として紹介してくださいり、知識の伝達だけでなく、人としての生き方のような話をしてくださいました。





恩師からの言葉



函館市立五稜中学校
同窓生

金澤秀司

私が五稜中学校を卒業したのは、平成六年三月のことです。卒業式のその日、私は恩師である村井貞夫先生から、今でも大切にしている、あらゆる一言をいただきました。「結果を求める努力をしてほしい。」最初の言葉を聞いた時には、「人間は、結果が欲しいから、努力するのではないか。」と全然意味がわかりませんでした。しかし、その言葉の持つなんとも言えない感じが、私の脳裏からこの言葉を忘れさせませんでした。

その後、高校、大学へ進み様々な経験や挫折をし、思い悩み、苦しい時ふと村井先生のあの言葉が浮かんできました。「結果を求める努力をしてほしい。」その時私が味わっていたのは、まさに努力を重ねても結果がでることに対する不安や悔しさ、やるせなさでした。きっとあの時先生がおっしゃった真意は、結果だけに、努力の価値を見出す

のではなく、その努力した過程にこそ、価値を見出すことのできる「努力」というものもある。」ということだつたのではないかと私は感じました。このことをきっかけに、私は自分でなく周りの人の努力に対しても「結果」だけではなく「過程」も含めて多面的な観点で、見られる

ようになり、様々な事象に対しても、前向きな姿勢で臨むことができるようになつただけでなく、周りの人に対しても優しい気持ちで接することができるようになりました。

そんな村井先生も御年八十歳を迎えた際、日々体力の衰えを感じるとながらも、元気にお過ごしであると、同窓会にお誘いした際にメッセージをいただきました。村井先生におかれでは、もしかするとただ普通の一言をおつしやつたに過ぎないのかもしれません。ですが私にとつては決して忘れられぬ、そしてこれからも大切にしていきたい一言です。

ありがとう、五稜中学校



函館市立五稜中学校
同窓生

相田日芽

私にとって五稜中学校は、かけがえのない「宝物」です。中学校三年間を振り返ると、とてもあつという間でしたが、その中でたくさんの方と経験しました。今年度を最後に閉校すると聞き、多くの卒業生はどんな思いを抱いているのでしょうか。

私が中学二年生の時、五稜中学校は創立五十周年を迎えました。当時は、多くの先輩が刻んでこられた歴史を胸に、新たな取り組みも行い、六十年、七十年、百年と続いていくことを願っていました。私が卒業してから三年。たった三年の間で閉校が決まってしまいました、とても悲しく大きな動揺を隠せずにいます。

私は生徒会会長として活動しました。正直なところ、私は学校という場所が苦手でした。そんな私が生徒会に入る際、私を含め少しでも多くの生徒が「学校に来たい」と思えるような学校を作りたいと思つていま

した。しかし、活動をしてみると、そのような大きな事は簡単にはできないのだと気づき、それならば、笑顔で生活できる人を増やしたい、学校全体に笑顔が溢れるようにしたいと思いました。具体的な取り組みとしては、生徒と先生、先輩と後輩の壁を薄くし、交流できる時間を設けました。「生徒会企画集会」と題して、学校行事としては考えられないような取り組みにも挑戦しました。私が企画したことや、行つた取り組みで全校生徒を笑顔にできたかは分かりませんが、一瞬でも「楽しい」と思つてくれたのではないかと信じています。

最後に、五稲中学校からもらったことで、一番大切なことがあります。それは、大切な出会いの場を与えてくれたことです。今でも連絡を取り合い、久々に会つても落ち着く仲間。心から信頼し、尊敬する先生。五稲中学校があつたから、今の私があります。大好きな場所であり、心から感謝しています。ありがとうございます。私が五稲中学校は永遠です。

五稜中の足跡



生徒の活動の記録 ►►►►►►►►►► 運動部

	卓球	体操	柔道	バレー ボール	陸上	野球	テニス	バスケット ボール	サッカー	剣道
昭和38年	準優勝(男女)	優勝(男)		優勝(男)	優勝(女) 準優勝(総)					
昭和39年	優勝(女)	3位(総)			優勝(男) 3位(女) 準優勝(総)					
昭和40年	優勝(女)	優勝(男) 準優勝(女)		3位(女)	優勝(男・総) 3位(女)					
昭和41年	3位(男) 準優勝(女)	優勝(男) 準優勝(女)			準優勝(男・総)		優勝(女)			
昭和42年	準優勝(男)	優勝(男・女)		優勝(男)	優勝(男・総) 3位(女)		3位(男)		3位	
昭和43年	優勝(女)	優勝(女) 準優勝(男)	3位	優勝(男) 準優勝(女)	準優勝(男) 3位(総)	3位	準優勝(女)		3位	
昭和44年	優勝(女)	優勝(女) 準優勝(男)	3位	3位(男・女)	準優勝(男) 3位(総)		優勝(男) 準優勝(女)		3位	
昭和45年	優勝(女)	準優勝(女)	3位	3位(男)	優勝(男) 準優勝(総)	準優勝				
昭和46年	準優勝(男)	優勝(男・女)				優勝				
昭和47年	準優勝(男)				3位(女・総)	準優勝			3位	
昭和48年		優勝(女)					優勝(男)			
昭和49年		準優勝(女) 3位(男)								
昭和50年		3位(女)				3位				
昭和51年		準優勝(男)				3位				
昭和52年		優勝(男) 準優勝(女)	3位(男)					準優勝(女)		
昭和53年		準優勝(男) 3位(女)	準優勝						3位	
昭和54年	準優勝(男)			優勝						
昭和55年	準優勝(男)			優勝						
昭和56年				優勝	陸上部主将 山本敏雄くん 11秒0 100m中学校日本新記録 放送陸上S45.7.26					
昭和57年							準優勝(男)			
昭和58年				優勝		3位				
昭和59年	3位(男)			準優勝	準優勝(男)		3位(男)			
昭和60年				準優勝			準優勝(女)			
昭和61年				準優勝					3位	
昭和62年				3位						
昭和63年	準優勝(女) 3位(男)								3位	
平成元年	優勝(男・女) 全国大会出場			3位			3位(男・女)			
平成2年	準優勝(男)									



五稜中の足跡

	卓 球	体 操	柔 道	バレー ボーラ	陸 上	野 球	テニス	バスケット ボーラ	サッカ	剣 道
平成 3年						優勝				
平成 4年	優勝(男)					3位				
平成 5年	準優勝(男)					優勝				
平成 6年	優勝(男)									
平成 7年	優勝(男)									
平成 8年	3位(男)					3位				
平成 10年	3位(男)									
平成 11年						3位				
平成 12年							3位(女)			準優勝(女)
平成 13年						優勝				
平成 16年							3位(女)			
平成 17年							準優勝(男)			準優勝(女)
平成 18年							3位(男)			
平成 19年	3位(男)						準優勝	準優勝(男) 3位(女)		
平成 20年	3位(男)						3位	4位(女)		
平成 21年	3位(男)						準優勝	準優勝(女)		
平成 22年							3位	準優勝 (男・女)		
平成 23年								3位(男)		
平成 24年								優勝(女)		
平成 26年								優勝(女) 3位(男)		
平成 27年								準優勝		



平成 26年 テニス部



陸 上 菅井 慧くん
中体連全道陸上走幅跳 第1位

その他クラブの受賞歴

- ◆昭和49年 ハンドボール 準優勝(男)
優勝(女)
- ◆昭和62年 ソフトボール 3位
- ◆昭和63年 ソフトボール 3位
- ◆平成元年 ソフトボール 3位
- ◆平成6年 水泳 全国大会出場
- ◆平成10年 陸上 全国大会出場
- ◆平成26年 陸上 全国大会出場
- ◆平成27年 陸上 全国大会出場





生徒の活動の記録 ►►►►►►►►► 文化部

開催年度	受賞内容	開催年度	受賞内容
昭和39年度	全国学生書道展 特選	昭和59年度	全道吹奏楽コンクール 金賞
〃	発明工夫展 市長賞	昭和60年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
〃	北海道学生書道展 特選	〃	全道吹奏楽コンクール 金賞
昭和41年度	全道発明工夫展 入賞	昭和62年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和51年度	全国青少年読書感想文コンクール 入賞	平成4年度	全日本書道コンクール中二の部 最優秀賞
〃	全道中学生作文コンクール 優秀賞	平成5年度	リコーダーコンクール道南地区大会 金賞(全道大会出場)
〃	日本学生科学賞 優秀賞	平成6年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和52年度	日本学生科学賞 優秀賞	平成8年度	全国書道コンクール(全書芸) 最優秀大賞
〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞	〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
〃	全道吹奏楽コンクール 銀賞	平成9年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和53年度	全国青少年読書感想文コンクール 入賞	平成13年度	高円宮杯全日本中学校英語弁論大会(全国大会出場)
〃	日本学生科学賞 優秀賞	〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和54年度	シェル科学コンテスト(全国論文) 学校賞	平成19年度	高円宮杯全日本中学校英語弁論大会(全国大会出場)
〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞	〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和55年度	全国青少年読書感想文コンクール 入賞	平成20年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
〃	日本学生科学賞 最優秀賞	〃	北海道吹奏楽コンクール 銀賞
〃	シェル科学コンテスト(全国論文) 一等	平成21年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和56年度	リコーダー 全道2位	〃	北海道吹奏楽コンクール 金賞
〃	リコーダーアンサンブルコンクール 優勝	平成22年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和57年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞	〃	北海道吹奏楽コンクール 銀賞
〃	全道吹奏楽コンクール 銀賞	平成23年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和58年度	こども音楽コンクール(リコーダー) 最優秀賞	平成24年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
〃	函館地区吹奏楽コンクール 金賞	平成25年度	函館地区吹奏楽コンクール 銀賞
〃	全道吹奏楽コンクール 金賞	平成26年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞
昭和59年度	函館地区吹奏楽コンクール 金賞	平成27年度	函館地区吹奏楽コンクール 銀賞

歴代校長



4代目校長
梶原 四郎
(S43.11～S48.3)



3代目校長
三ツ谷毅一
(S42.6～S43.10)



2代目校長
藤川 光夫
(S40.4～S42.5)



初代校長
沼山吉之助
(S37.4～S40.3)



8代目校長
寺岡 守男
(S58.4～S61.3)



7代目校長
村上 健介
(S55.4～S58.3)



6代目校長
斎藤 正之
(S52.4～S55.3)



5代目校長
金沢 浩
(S48.4～S52.3)



13代目校長
金山 正智
(H5.4～H5.10)



12代目校長
堀井 透
(H4.4～H5.3)



11代目校長
田嶋 靖彦
(H2.4～H4.3)



10代目校長
高橋 長一
(S63.4～H2.3)



9代目校長
押澤 正治
(S61.4～S63.3)



18代目校長
田村 順子
(H14.4～H17.3)



17代目校長
佐野 武
(H12.4～H14.3)



16代目校長
鹿内 進
(H10.4～H12.3)



15代目校長
札内 征男
(H8.4～H10.3)



14代目校長
近野 功
(H5.10～H8.3)



23代目校長
小川 弘
(H27.4～現在)



22代目校長
内城 明良
(H25.4～H27.3)



21代目校長
青木 完二
(H22.4～H25.3)



20代目校長
坂上 篤夫
(H20.4～H22.3)



19代目校長
畠野 克行
(H17.4～H20.3)

歴代教職員名簿

職名	氏名	発令・転退年月日
みどり	渡辺 宏平	S 41. 4. 1~45. 3.31
みどり	勝野 一生	41. 4. 1~44. 3.31
道事務職	武田 政雄	41. 4. 1~46. 3.31
市事務職	藪下 寛	41. 4. 1~43. 7. 1
教頭	斎藤 正之	42. 4. 1~45. 3.31
教諭	笠島 寿泰	42. 4. 1~48. 3.31
〃	田嶋 靖彦	42. 4. 1~47. 3.31
〃	保坂 武道	42. 4. 1~48. 3.31
市事務職	上杉 宏子	42. 4. 1~45. 3.31
教諭	金崎 鮎一	42.10. 1~48. 8.15
〃	本堂 潤悦	43. 4. 1~52. 3.31
用務員	木村 照江	43. 5. 1~54. 3.31
市事務職	和田 秀子	43. 7. 5~46. 9.21
教諭	進士 錠昭	44. 4. 1~51. 3.31
みどり	福士 重雄	44. 4. 1~45. 3.31
みどり	佐々木 峯生	44. 4. 1~45. 3.31
みどり	長尾 敏子	44. 4. 1~49. 3.31
養護教諭	山田 孝子	44. 4. 1~49. 3.31
用務員	熊倉 利典	44. 7. 1~46. 3.31
夜警	大竹 義勝	44. 7. 1~46.10. 1
教頭	村上 健介	45. 4. 1~48. 3.31
教諭	川原 エイ子	45. 4. 1~53. 3.31
〃	館洞 光宏	45. 4. 1~53. 3.31
〃	佐々木 雄幸	45. 4. 1~54. 3.31
みどり	大福 栄一	45. 4. 1~50. 3.31
みどり	遠藤 一郎	45. 4. 1~49. 3.31
市事務職	柳沢 美代	45. 4. 7~52. 3.31
教諭	小西 孝男	45. 5. 1~53. 3.31
〃	村田 偉子	46. 4. 1~51. 3.31
〃	大平 元昭	46. 4. 1~54. 3.31
〃	泉 良子	46. 4. 1~55. 3.31
道事務職	高橋 市雄	46. 4. 1~52. 3.31
用務員	高田 広栄	46. 4. 5~55. 3.31
教諭	林 俊夫	46. 5.25~55. 3.31
用務員	沢村 佐次郎	46.10. 1~55. 3.31
夜警	藤井 光雄	46.10. 1~51. 9.14
教諭	龟松 光美	47. 4. 1~48. 3.31
〃	玉木 忠	47. 4. 1~50. 3.31
〃	八反田 稔	47. 4. 1~57. 3.31
〃	斎藤 美都子	47. 4. 1~51. 3.31
市事務職	杉浦 ミヤ子	47. 5. 1~54. 6. 3
教頭	小林 一美	48. 4. 1~53. 3.31
教諭	小西 政一	48. 4. 1~49. 3.31
〃	酒田 文雄	48. 4. 1~58. 3.31
〃	井上 貞興	48. 4. 1~52. 3.31
〃	田中 恒也	48. 4. 1~58. 3.31
〃	猪狩 一則	48. 4. 1~57. 3.31
みどり	門馬 常	48. 4. 1~54. 3.31
みどり	田畠 早苗	48. 7.16~54. 3.31
教諭	深栖 久佳	48. 8.16~58. 3.31
〃	伊藤 邦子	48. 4. 7~53. 4. 3

職名	氏名	発令・転退年月日
教頭	井上 豊	S 36. 4. 1~39. 3.31
教諭	西谷 富士雄	36. 4. 1~45. 3.31
〃	阿部 光房	36. 4. 1~45. 4.19
〃	平沼 靖雄	36. 4. 1~42. 3.31
〃	千葉 和衛	36. 4. 1~39. 3.31
〃	菅原 昭一	36. 4. 1~41. 3.31
〃	松井 喜一	36. 4. 1~42. 3.31
〃	桜井 恭子	36. 4. 1~46. 3.31
〃	永谷 嘉一	36. 4. 1~48. 3.31
養護教諭	吉田 ヤエ	36. 4. 1~39. 3.31
市事務職	榎田 美代	36. 4. 1~42. 3.31
用務員	荒谷 ミツ	36. 4. 1~43. 4. 5
〃	沖野 喜久雄	36. 4. 1~40. 5. 1
〃	堤 勇	36.10.11~40. 5. 1
教諭	藤原 孝一	37. 4. 1~46. 3.31
〃	野々村 正晴	37. 4. 1~45. 3.31
〃	石塚 孝成	37. 4. 1~40. 3.31
〃	鶴田 曙子	37. 4. 1~43. 3.31
〃	笠井 敬一	37. 4. 1~39. 3.31
〃	成田 恭子	37. 4. 1~47. 3.31
〃	小川 智博	37. 4. 1~40. 3.31
用務員	杉村 つや	37. 5. 1~39. 3. 5
〃	庄司 三郎	38. 3. 1~44. 7. 1
教諭	安井 孝	38. 4. 1~44. 3.31
〃	門脇 初代	38. 4. 1~49. 3.31
〃	広澤 博正	38. 4. 1~42. 3.31
〃	金田 豊秀	38. 4. 1~48. 3.31
〃	坂牧 達夫	38. 4. 1~42. 3.31
〃	竹内 巍太郎	38. 4. 1~46. 3.31
〃	荻原 ハル	38. 4. 1~46. 3.31
〃	永井 太郎	38. 4. 1~47. 3.31
教諭：教頭	土門 厚	38. 4. 1~41. 3.31
教諭	三十刈 智一	38. 4. 1~47. 3.31
〃	蘇馬辰郎	38. 4. 1~47. 3.31
〃	奥寺 明	38. 5.16~41. 3.31
道事務職	日野口 一男	38. 4. 1~44. 6. 3
用務員	大畑 金三郎	39. 3. 5~40. 1. 3
教諭	武石 光正	39. 4. 1~40. 3.31
〃	糸川 俊郎	39. 4. 1~47. 3.31
〃	齊藤 正宏	39. 4. 1~48. 3.31
養護教諭	帰山 祥子	39. 4. 1~44. 3.31
教諭	佐々 陽	40. 4. 1~41. 3.31
〃	岡本 守	40. 4. 1~50. 3.31
〃	三上 力也	40. 4. 1~45. 3.31
用務員	藤崎 孝造	40. 5. 1~45. 4. 4
教頭	太田 秀雄	41. 4. 1~42. 3.31
教諭	滝村 浩平	41. 4. 1~49. 3.31
〃	福寿 末太郎	41. 4. 1~42. 3.31
〃	米田 忠夫	41. 4. 1~51. 3.31
〃	主藤 節子	41. 4. 1~47. 3.31
みどり	望月 年春	41. 4. 1~44. 3.31

五稜中の足跡

職名	氏名	発令・転退年月日
用務員	中島 真之	S59. 4. 1~60. 3.31
教諭	伊藤 陽二	59. 4. 1~62. 3.31
	大野 哲朗	60. 4. 1~ 2. 3.31
〃	吉田 孜	60. 4. 1~10. 3.31
〃	大森 武治	60. 4. 1~62. 3.31
〃	吉田 美奈子	60. 4. 1~H6. 3.31
市事務職	佐古 恵美	60. 5.20~62. 3.31
時間講師	井上嗣仁	60.11. 1~60.12.24
教頭	日下修三	61. 4. 1~62. 3.31
教諭	上田 陽子	61. 4. 1~H4. 3.31
〃	木村 達	61. 4. 1~H4. 3.31
〃	増川 四郎	61. 4. 1~H4. 3.31
〃	吉田 安宏	61. 4. 1~H8. 3.31
〃	国田 礼子	61. 4. 1~H2. 3.31
道事務職	泉 郁子	61. 4. 1~H5. 3.31
教頭	多田 敏夫	62. 4. 1~H2. 3.31
教諭	高橋 一也	62. 4. 1~H8. 3.31
〃	辰宮 稔	62. 4. 1~H5. 3.31
〃	村井 貞夫	62. 4. 1~H8. 3.31
〃	海老名 潔	62. 4. 1~63. 3.31
〃	田村 順子	62. 4. 1~H7. 3.31
養護教諭	斎藤 直美	62. 4. 1~H6. 3.31
市事務職	小川 ムツミ	62. 4. 1~63. 3.31
用務員	近江谷 千春	62. 4. 1~H7. 3.31
期限教諭	平野 史子	62. 6.18~63. 2.22
教諭	斎藤 克己	63. 4. 1~H5. 3.31
〃	松山 元彦	63. 4. 1~H9. 3.31
〃	山本 忠行	63. 4. 1~H2. 3.31
〃	古館 勉	63. 4. 1~H7. 3.31
市事務職	稻葉 陽子	63. 4. 1~H5. 3.31
用務員	松本 恭右	63. 4. 1~H7. 3.31
教諭	佐藤 泰治	元. 4. 1~ 5. 3.31
〃	浅井 庸子	元. 4. 1~ 5. 3.31
〃	木村 以久子	元. 4. 1~ 9. 3.31
〃	中谷 満	H元. 4. 1~ 8. 3.31
〃	石井 哲八	元12. 1~ 3. 3.31
日直	堀 俊邦	元. 4. 1~12. 3.31
教頭	高村 昭三	2. 4. 1~ 4. 3.31
教諭	井筒 泰三	2. 4. 1~ 6. 3.31
〃	杉山 春吉	2. 4. 1~ 9. 3.31
〃	大村 俊幸	2. 4. 1~10. 3.31
〃	渡辺 悅子	2. 4. 1~ 3. 3.31
〃	渡辺 ゆみ子	2. 4.16~ 3. 3.31
時間講師	藤原 しのぶ	2. 4.16~ 3. 3.31
教諭	信田 博之	3. 4. 1~10. 3.31
期限教諭	中村 三千代	3. 5. 1~ 5. 3.24
教頭	斎藤 正宏	4. 4. 1~ 6. 3.31
〃	辰巳 美恵子	4. 4. 1~10. 3.31
〃	萩野 雅彦	4. 4. 1~11. 3.31
〃	内木 龍	4. 4. 1~ 8. 3.31
期限教諭	磯川 千代美	4. 8.17~ 5. 9.22
講師	加藤 実	4. 4.20~ 5. 3.24
教諭	岩崎 鶴好	5. 4. 1~ 9. 3.31
〃	篠谷 巍	5. 4. 1~14. 3.31
〃	藤森 剛	5. 4. 1~ 7. 3.31
〃	成田 牧	5. 4. 1~ 9. 3.31
期限教諭	龟谷 英美子	5. 5. 1~ 5.11. 3
講師	小林 孝雄	5. 4.20~ 6. 3.24
事務職員	登坂 紀子	5. 5. 1~ 7. 4. 3
〃	三上 のり子	5. 4. 1~12. 3.31

職名	氏名	発令・転退年月日
〃	早崎 石子	S 48. 4. 7~62. 3.31
〃	島貫 讓	49. 4. 1~57. 3.31
〃	毛間内 茂二	49. 4. 1~56. 3.31
〃	永田 裕三	49. 4. 1~55. 3.31
みどり	谷口 幸一	49. 4. 1~54. 3.31
養護教諭	春田 むつゑ	49. 4. 1~55. 3.31
教諭	鹿角 令夫	50. 4. 1~58. 3.31
〃	平向 貞重	50. 4. 1~59. 3.31
〃	長岡 正昭	51. 4. 1~59. 3.31
〃	阿部 雅朗	51. 4. 1~60. 3.31
〃	長尾 祥子	51. 4. 1~57. 3.31
〃	伊藤 英実	51. 4. 1~59. 3.31
〃	鈴木 利治	51. 4. 1~56. 3.31
夜警	松田 千秋	51. 9.24~52. 3.31
教諭	室 富夫	52. 4. 1~56. 3.31
〃	板東 忠康	52. 4. 1~61. 3.31
道事務職	島村 和子	52. 4. 1~61. 3.31
市事務職	小川 安紀子	52. 4. 1~55. 3.31
日直代行	伊部 長	52. 4. 1~53. 4. 3
教頭	辻 俊治	53. 4. 1~57. 3.31
教諭	安井 崑男	53. 4. 1~61. 3.31
〃	大久保 雄治	53. 4. 1~54. 3.31
給食	熊谷 トシ	53. 5. 1~H11. 3.31
日直代行	穴竈 栄作	53. 5. 1~54.12.21
教諭	杉谷 宏	54. 4. 1~62. 3.31
日直代行	原田 岩雄	54.12.22~57. 3.31
教諭	竹村 英夫	55. 4. 1~62. 3.31
〃	坂田 法行	55. 4. 1~59. 3.31
〃	大坂 邦子	55. 4. 1~64. 3.31
養護教諭	日向 泰子	55. 4. 1~62. 3.31
市事務職	中川 英俊	55. 4. 1~60. 5.15
臨時事務	斎藤 ひとみ	55. 4. 1~56. 3.31
用務員	小林 勇	55. 4. 1~63. 3.31
〃	安藤 ヤユエ	55. 4. 1~60. 3.31
教諭	佐々木 一夫	56. 4. 1~H2. 3.31
〃	渡辺 満	56. 4. 1~63. 3.31
〃	石井 哲八	56. 4. 1~63. 3.31
〃	石名坂 克明	56. 4. 1~62. 3.31
臨時事務	安栗 恵理子	56. 4. 1~57. 3.31
用務員	小柳 昭治	56. 4. 1~59. 3.31
〃	寺田 博	56. 6.27~60. 5.15
代替講師	山路 満理子	56.10.26~56.11.19
教頭	亀松 光美	57. 4. 1~61. 3.31
教諭	網塚 剛充	57. 4. 1~60. 3.31
〃	小林 康秀	57. 4. 1~63. 3.31
〃	小林 一雄	57. 4. 1~59. 3.31
〃	橋詰 尤子	57. 4. 1~64. 3.31
臨時事務	長内 美帆子	57. 4. 1~58. 3.31
日直代行	山崎 易	57. 4. 1~58. 3.31
教諭	寺根 正善	58. 4. 1~63. 3.31
〃	山岸 岩夫	58. 4. 1~ 2. 3.31
〃	三河 和宏	58. 4. 1~ 2. 3.31
〃	石津 兼一	58. 4. 1~63. 3.31
日直代行	立川 行恵	58. 4. 1~63. 3.31
講師	松本 明	58. 4.16~58. 6.16
期限教諭	石橋 典幸	58. 4. 6~58. 6.24
教諭	武田 蓉子	58. 6.16~64. 3.31
〃	笠原皓一	59. 4. 1~60. 3.31
〃	川島 啓右	59. 4. 1~62. 3.31
〃	伊藤 英明	59. 4. 1~61. 3.31

五稜中の足跡

職名	氏名	発令・転退年月日
市職嘱託	歩仁内里美	H15.4.1~19.3.31
教頭	青木昌史	16.4.1~17.3.31
教諭(再任用)	渡辺淳	16.4.1~18.3.31
〃(再任用)	石名坂克明	16.4.1~18.3.31
用務員	高村秀喜	16.4.1~21.3.31
相談員	篠原五郎	16.7.5~17.3.24
教頭	中谷満	17.4.1~19.3.31
教諭	山口啓子	17.4.1~23.3.31
〃	後藤昌樹	17.4.1~23.3.31
〃	閔谷正二	17.4.1~20.3.31
給食	大門加奈子	17.4.1~28.3.31
日直	寺島憲児	17.4.1~18.3.11
日直	深井敏也	18.3.12~19.9.30
教諭	岡本憲幸	18.4.1~22.3.31
〃	金丸裕之	18.4.1~20.3.31
〃	水野温	18.4.1~20.3.12
〃	石塚奈津子	18.4.1~25.3.31
〃	小林哲子	18.4.1~25.3.31
道事務職	石山貴司	18.4.1~24.3.31
教諭	川端裕介	18.4.1~23.3.31
期限教諭	中田美紀	18.1.1~19.10.30
教頭	信夫恵美子	19.4.1~20.3.31
教諭	阿部真琴	19.4.1~23.3.31
〃	黒川達朗	19.4.1~25.3.31
市職嘱託	中村和子	19.4.1~25.3.31
期限教諭	祖父江俊介	19.4.2~20.3.31
日直	斎藤衛	19.10.1~23.3.31
教頭	三浦佐和子	20.4.1~23.3.31
教諭	吉田亨	20.4.1~22.3.31
〃	八木橋裕司	20.4.1~26.3.31
期限教諭	吉野敬一	20.4.1~21.7.31
用務員	波松洋	20.4.1~25.3.31
教諭	佐藤伸幸	21.4.1~25.3.31
養護教諭	小林恵美子	21.4.1~24.3.31
期限教諭	小野寺直樹	21.4.1~22.3.31
用務員	野村司	21.4.1~28.3.31
教諭	中村英彦	22.4.1~28.3.31
〃	小野寺清孝	22.4.1~26.3.31
期限教諭	高橋洋	22.4.16~28.3.31
〃	菊地功	22.4.1~22.7.25
教頭	小川弘	23.4.1~26.3.31
教諭	野坂正己	23.4.1~28.3.31
〃	笠松英治	23.4.1~28.3.31
〃	坂本文子	23.4.1~28.3.31
日直	棟方勝美	23.4.1~27.3.31
養護教諭	小柳未来	24.4.1~27.3.31
事務職員	青木勝哉	24.4.1~27.3.31
教諭	阿部菜穂美	25.4.1~28.3.31
教諭	中村卓	25.4.1~28.3.31
教諭	中川陽介	25.4.1~28.3.31
特別支援教育支援員	中田美紀	25.4.1~26.3.31
教頭	對馬寿恵	26.4.1~28.3.31
教諭	谷藤英明	26.4.1~28.3.31
特別支援教育支援員	菅美千代	26.4.1~27.3.31
期限教諭	田中寛	26.4.1~28.3.31
期限教諭	岡野友恵	27.4.1~28.3.31
事務職員(再任用)	青木勝哉	27.4.1~28.3.31
期限教諭	和賀圭一郎	27.4.16~28.3.31
特別支援教育支援員	雄谷浩	27.8.24~28.3.31

職名	氏名	発令・転退年月日
教頭	山岸秀一	H6.4.1~9.3.31
教諭	後藤賢一	6.4.1~12.3.31
養護教諭	森豊子	6.4.1~13.3.31
用務員	坪田正明	6.4.1~11.3.31
教諭	名古屋真俊	7.4.1~10.3.31
〃	田中篤子	7.4.1~13.3.31
〃	山口哲也	7.4.1~16.3.31
事務職員	熊倉啓恵	7.5.1~9.2.25
用務員	工藤康博	7.4.1~12.3.31
時間講師	松田聰郎	7.5.1~9.2.25
教諭	阪井恒雄	8.4.1~11.3.31
〃	越田喜忠	8.4.1~14.3.31
〃	伊勢健	8.4.1~14.3.31
〃	辻吉隆	8.4.1~11.3.31
〃	佐藤雅博	8.4.1~15.3.31
〃	浦野志織	8.4.1~12.3.31
時間講師	川上潤	8.4.16~9.3.31
臨時事務	竹内さとみ	9.2.26~10.3.31
教頭	小林武征	9.4.1~10.3.31
教諭	鮫川静穂	9.4.1~11.3.31
〃	大宅剛	9.4.1~14.3.31
〃	桑野健一	9.4.1~17.3.31
〃	戸田修	9.4.1~10.3.31
時間講師	高島貞	9.4.16~10.3.31
教頭	山本俊秀	10.4.1~13.5.15
教諭	鶴宗三郎	10.4.1~21.3.31
〃	菊地康幸	10.4.1~17.3.31
期限教諭	竹田京子	10.9.7~11.11.26
教諭	輪島陽子	10.4.1~15.3.31
期限教諭	伊藤美保	10.4.3~11.3.31
時間講師	渡邊節子	10.4.16~11.3.31
相談員	岩崎鶴好	10.10.19~12.3.31
事務職員	槽山栄子	10.4.1~15.3.31
教諭	笹原五郎	11.4.1~15.3.31
〃	大山裕香	11.4.1~18.3.31
期限教諭	小阪忠弘	11.9.16~11.12.1
用務員	山口秀夫	11.4.1~16.3.31
給食	稻垣良子	11.4.1~13.3.31
教諭	渡辺淳	12.4.1~16.3.31
〃	阿部真美	12.4.1~18.3.31
相談員	今井正夫	12.5.8~14.3.31
道事務職	相原郁夫	12.4.1~18.3.31
期限教諭	小林巧平	12.10.17~12.12.23
日直	高島優	12.4.1~17.3.31
用務員	高野雄二	12.4.1~20.3.31
教諭	七宮義通	13.4.1~17.3.31
養護教諭	武田輝代	13.4.1~21.3.31
時間講師	川尻健二	13.4.16~14.3.31
教頭	高橋登	13.5.16~16.3.31
教諭	日角朱実	14.4.1~19.3.31
〃	小田桐智	14.4.1~21.3.31
〃	木村麻岐	14.4.1~19.3.31
〃	南条恵二	14.4.1~18.3.31
期限教諭	丸山淳子	14.4.1~15.3.31
時間講師	棚上圭	14.4.8~15.3.31
相談員	後藤信夫	14.6.3~15.3.31
期限教諭	森美絵子	14.12.7~16.5.31
教諭	須藤誠一郎	15.4.1~21.3.31
〃(再任用)	笹原五郎	15.4.1~16.3.31
〃(再任用)	中村史	15.4.1~16.3.31

各年度学級数・生徒数・卒業生数

年 度	学級数	生徒数	卒 業 生 数			
			男 子	女 子	合 計	累 計
昭和36年度	7	304				
昭和37年度	12	617				
昭和38年度	19	899	162	148	310	310
昭和39年度	19	885	192	138	330	640
昭和40年度	19	834	139	139	278	918
昭和41年度	21	865	163	143	306	1,224
昭和42年度	21	842	163	114	277	1,501
昭和43年度	21	835	144	134	278	1,779
昭和44年度	22	819	158	128	286	2,065
昭和45年度	21	785	134	124	258	2,323
昭和46年度	20	728	134	112	246	2,569
昭和47年度	19	700	126	117	243	2,812
昭和48年度	19	705	128	99	227	3,039
昭和49年度	18	654	102	97	199	3,238
昭和50年度	18	655	113	98	211	3,449
昭和51年度	18	662	129	92	221	3,670
昭和52年度	18	660	108	95	203	3,873
昭和53年度	18	624	123	90	213	4,086
昭和54年度	14	570	96	83	179	4,265
昭和55年度	15	600	107	92	199	4,464
昭和56年度	15	581	76	103	179	4,643
昭和57年度	15	568	86	96	182	4,825
昭和58年度	15	590	101	95	196	5,021
昭和59年度	15	594	92	92	184	5,205
昭和60年度	15	638	102	110	212	5,417
昭和61年度	16	663	108	94	202	5,619
昭和62年度	16	668	102	111	213	5,832
昭和63年度	15	642	115	109	224	6,056
平成元年度	15	583	101	111	212	6,268
平成2年度	15	528	94	101	195	6,463
平成3年度	14	489	84	79	163	6,626
平成4年度	13	465	91	79	170	6,796
平成5年度	12	451	70	86	156	6,952
平成6年度	12	438	79	67	146	7,098
平成7年度	12	445	66	76	142	7,240
平成8年度	12	425	73	74	147	7,387
平成9年度	11	380	80	69	149	7,536
平成10年度	10	332	63	60	123	7,659
平成11年度	9	304	61	45	106	7,765
平成12年度	9	288	44	57	101	7,866
平成13年度	9	292	44	49	93	7,959
平成14年度	9	279	47	46	93	8,052
平成15年度	8	262	50	52	102	8,154
平成16年度	7	241	44	43	87	8,241
平成17年度	7	253	37	36	73	8,314
平成18年度	8	270	36	37	73	8,387
平成19年度	8	260	53	48	101	8,488
平成20年度	8	246	42	51	93	8,581
平成21年度	7	224	39	29	68	8,649
平成22年度	8	223	48	41	89	8,738
平成23年度	6	185	36	26	62	8,800
平成24年度	6	187	23	46	69	8,869
平成25年度	6	178	28	23	51	8,920
平成26年度	5	167	29	32	61	8,981
平成27年度	6	153	33	34	67	9,048

五稜中の足跡

歴代PTA三役名簿

年度	会長	副会長	谷岡 純海	角田 亮治	又坂日出生		
		監査	棚池 神治	石田 政治	及川 キリ		
昭36	鈴木 義淨	副会長	谷岡 純海	角田 亮治	又坂日出生		
		監査	棚池 神治	石田 政治	及川 キリ		
昭37	鈴木 義淨	副会長	谷岡 純海	角田 亮治	又坂日出生		
		監査	棚池 神治	石田 政治	及川 キリ		
昭38	鈴木 義淨 又坂日出生	副会長	谷岡 純海	角田 亮治	又坂日出生	笹島吉平(8月よ)	
		監査	棚池 神治	石田 政治	掛端 石松		
昭39	千葉 順亮	副会長	宮下 昌三	国立亨太郎	笠島 吉平		
		監査	棚池 神治	石田 政治	掛端 石松		
昭40	笹島 吉平	副会長	石田 政治	国立亨太郎	棚池 神治	寺下 兼代	
		監査	上沢 辰雄	中野 義郎	坂 丈二		
昭41	笹島 吉平	副会長	葛城喜三松	棚池 神治	寺下 兼代		
		監査	福崎 正彦	菅原 道雄	坂 丈二		
昭42	笹島 吉平	副会長	葛城喜三松	棚池 神治	寺下 兼代	篠崎津枝子	
		監査	福崎 正彦	菅原 道雄	坂 丈二		
昭43	寺島 兼代	副会長	葛城喜三松	荒川 定治	菅原 道雄	畠 露子	
		監査	今井久五郎	村山 貞雄	花田 剛		
昭44	菅原 道雄	副会長	池田 泰	荒川 定治	村山 貞雄	山口シズエ	
		監査	田島 秀雄	野崎 悅郎	筒井 義定		
昭45	筒井 義定	副会長	池田 泰	野崎 悅郎	柴田 祐司	山口シズエ	
		監査	田島 秀雄	堀江 市三	富士 正		
昭46	筒井 義定 池田 泰	副会長	国立亨太郎	柴田 祐司	池田 泰	今野 汀子	荒川定治(7月よ)
		監査	田島 秀雄	島脇康悦郎	富士 正		
昭47	池田 泰	副会長	国立亨太郎	荒川 定治	柴田 祐司	高萩 圭子	
		監査	田島 秀雄	島脇康悦郎	富士 正		
昭48	国立亨太郎	副会長	石畠 克巳	高萩 賢一	工藤 猛	柴田 和	
		監査	田島 秀雄	石岡 喜八	山内 勝次		
昭49	国立亨太郎	副会長	石畠 克巳	工藤 猛	今野 汀子	柴田 和	
		監査	玉木 稔	及川己佐男	坂 丈二		
昭50	工藤 猛	副会長	石畠 克巳	小原 幸男	今野 汀子	柴田 和	
		監査	及川己佐男	菊地 健	小芝 慶一		
昭51	石畠 克巳	副会長	小原 幸男	川野 宗男	金浜 松雄	吉村 和子	
		監査	菊地 健	小芝 慶一	新明 道子		
昭52	石畠 克巳	副会長	小原 幸男	向井 愛子	金浜 松雄	吉村 和子	十倉 久子
		監査	菊地 健	小芝 慶一	渡辺 淑子		
昭53	石畠 克巳	副会長	菊地 健	向井 愛子	金浜 松雄	吉村 和子	十倉 久子
		監査	小芝 慶一	中村 一郎	稻葉 哲子		
昭54	石畠 克巳	副会長	沢口 俊郎	阿部 良子	山田 光治	稻葉 哲子	和田 京子
		監査	中村 一郎	飯田 寿子	真狩 啓子		
昭55	石畠 克巳	副会長	杉山 博康	阿部 良子	菊地 富男	稻葉 哲子	福留 陽子
		監査	飯田 寿子	真狩 啓子	中村 繁		
昭56	菊地 富男	副会長	杉山 博康	阿部 良子	中村 繁	幸田 小夜	真狩 啓子
		監査	飯田 寿子	福留 陽子	工藤 秀雄		
昭57	杉山 博康	副会長	大吉 啓	尾山 和子	中村 繁	工藤 秀雄	真狩 啓子
		監査	福留 陽子	伊勢 悅子	山川ヤス子		
昭58	菊地 富男	副会長	大吉 啓	工藤 秀雄	楠川 明男	藤井 信子	真狩 啓子
		監査	中村 浩	山川ヤス子	松下 蒼子		
昭59	菊地 富男	副会長	大吉 啓	宮崎 公彦	楠川 明男	藤井 信子	真狩 啓子
		監査	中村 浩	山川ヤス子	福留 陽子		
昭60	楠川 明男	副会長	佐藤 勉	宮崎 公彦	笠原 由子	藤井 信子	福留 陽子
		監査	中村 浩	笹野 桂子	掛端 光夫		
昭61	楠川 明男	副会長	掛端 光夫	宮崎 公彦	笠原 由子	藤井 信子	福留 陽子
		監査	笹野 桂子	石黒 博邦	森 芳久		
昭62	楠川 明男	副会長	掛端 光夫	新野 紀子	工藤 秀雄	藤井 信子	石黒 博邦
		監査	村上みどり	佐々木優子	森 芳久		
昭63	工藤 秀雄	副会長	秋山 靖彦	赤川久美子	山田 信幸	藤井 信子	佐藤 昭子
		監査	石黒 博邦	笹野 桂子	森 芳久		

歴代PTA三役名簿

年度	会長	副会長	秋山 靖彦	佐藤 昭子			
		監査	石黒 博邦	田口 靖彦			
平元	工藤 秀雄	副会長	佐藤 一美	山田 信幸			
		監査	高橋 昭	田口 靖彦			
平2	工藤 秀雄	副会長	佐藤 一美	柴山 浩子	上田真由美		
		監査	高橋 昭	田口 靖彦			
平3	廣部 七郎	副会長	佐藤 一美	上田真由美	宮崎 利彦		
		監査	菅原 康徳	石黒 敦子			
平4	廣部 七郎	副会長	佐藤 一美	上田真由美	宮崎 利彦	大野 厚子	
		監査	菅原 康徳	石黒 敦子			
平5	廣部 七郎	副会長	佐藤 一美	上田真由美	宮崎 利彦	大野 厚子	
		監査	菅原 康徳	石黒 敦子			
平6	鈴木康二郎	副会長	大平美栄子	上田真由美	大野 厚子		
		監査	菅原 康徳	石黒 敦子			
平7	鈴木康二郎	副会長	大平美栄子	上田真由美	長内 靖子	大野 厚子	
		監査	菅原 真子	塙谷ミツ子			
平8	鈴木康二郎	副会長	大平美栄子	長内 靖子	菅原 真子		
		監査	池田 つよ	塙谷ミツ子			
平9	鈴木康二郎	副会長	小泉真智子	上戸 房子	菅原 真子		
		監査	池田 つよ	近藤 和行			
平10	鈴木康二郎	副会長	小泉真智子	上戸 房子	長内 靖子	菅原 真子	
		監査	榊 まり子	近藤 和行			
平11	近藤 和行	副会長	小島恵津子	上戸 房子	長内 靖子		
		監査	榊 まり子	小上 元子			
平12	近藤 和行	副会長	小島恵津子	上戸 房子	長内 靖子		
		監査	高橋美和江	小上 元子			
平13	近藤 和行	副会長	高橋美和江	敦澤ひとみ	榊 まり子		
		監査	笹谷佐津代	竹村 綾子			
平14	近藤 和行	副会長	高橋美和江	敦澤ひとみ	竹村 綾子	榊 まり子	
		監査	笹谷佐津代	大越 淑恵			
平15	敦澤ひとみ	副会長	中谷 直子	笹谷佐津代	竹村 綾子	榊 まり子	
		監査	土肥 早苗	中西 美貴			
平16	中谷 直子	副会長	土肥 早苗	中西 美貴	大越 淑恵	有岡 肇	
		監査	金 まゆみ	門傳 明美			
平17	中谷 直子	副会長	木佐聖一郎	中西 美貴	金 まゆみ	門傳 明美	
		監査	坂本 優子	柳田 春美			
平18	木佐聖一郎	副会長	柳田 春美	門傳 明美	金 まゆみ		
		監査	坂本 優子	渡邊由美子			
平19	堀川 次郎	副会長	柳田 春美	坂本 優子	渡邊由美子		
		監査	吉村 篤子	本田利恵子			
平20	益井 基	副会長	吉村 篤子	本田利恵子	渡邊由美子		
		監査	久末 結佳	橋木紀美子			
平21	益井 基	副会長	三浦由貴子	本田利恵子	久末 結佳	高橋恵美子	
		監査	盛 正人	國門 卓也			
平22	益井 基	副会長	三浦由貴子	國門 卓也	盛 正人	田原 昭子	
		監査	工藤 純子	對馬 貴子			
平23	對馬 浩	副会長	三浦由貴子	工藤 純子	對馬 貴子	中村 広之	
		監査	田原 昭子	大谷 瞳子			
平24	對馬 浩	副会長	田原 昭子	大谷 瞳子	奥山美佐子	田賀 剛	
		監査	鎌田由美子	金濱 恵子			
平25	對馬 浩	副会長	金濱 恵子	大谷 瞳子	奥山美佐子	田賀 剛	
		監査	鎌田由美子	田村奈津子			
平26	田中 慎一	副会長	金濱 恵子	田村奈津子	鎌田由美子	宮下 尚子	
		監査	新町 裕美	高橋 尚子			
平27	田中 慎一	副会長	奥山美佐子	斎藤ゆきえ	鎌田由美子	宮下 尚子	
		監査	新町 裕美	高橋 尚子			



平成27年度 PTA三役



平成27年 バザー

PTA活動のあゆみ



平成23年 給食試食会



平成6年 小物作り



昭和36年 母の会料理講習会

編集後記

閉校記念誌「五稜」発行にあたり、ご多用の中、原稿依頼を快く引き受け、ご寄稿くださいました皆様、ご助力を賜った多くの皆様に心から感謝申し上げます。

平成23年に50周年記念誌の編集後記に、“現在、社会情勢や学校を取り巻くさまざまな環境はめまぐるしく変わってきております”という一文があります。まるで、わずか5年後のこの時を予見しているかのような一文に驚きを感じます。内容としては重複する部分もございますが、ご寄稿くださった皆様から新たなエピソードなどもいただきましたので、この記念誌をお読みになり、五稜中学校の歴史に触れていただければ幸いです。

閉校を前に、先輩方や先生方が来校されています。その方々が自然に校訓の「誠実 協調 真理 探求」、そして『五稜三訓』のことを話されるのを見たりにし、開校当時からの精神を生きる上での糧とされている方が数多くいらっしゃるのを感じます。『五稜三訓』は今も本校生徒の指針として唱和され、生活の中のあらゆるところに息づいています。そして、閉校した後も生徒はこの精神を胸に刻み成長していくことでしょう。

結びに、本校の教育活動にご支援、ご協力をいただいているPTA会員・同窓生・地域の皆様・関係各位に感謝を申し上げ、皆様の益々のご健勝をお祈りして編集後記といたします。

記念誌部会一同

閉校記念事業実行委員会

◇委員長 田中 慎一
◆副委員長 後藤 信夫・小松 将人
◇名誉委員長 小川 弘
◆事務局長 対馬 寿恵
◇事務局次長 中村 卓
◆事務局員 青木 勝哉・野村 司・井上 正樹
◇会計 鎌田由美子・宮下 尚子・奥山美佐子・斎藤ゆきえ
◆監査 高橋 尚子・新町 裕美
◇理事 田原 昭子・敦澤ひとみ・中谷 直子・三浦由貴子
廣川 和夫・黒川 力・黒川志満子・小西 憲男
茶野 佳博・住山 省悟・綱森 哲美・水谷眞貴子

各部長

◇式典・語る会部会

部長 坂本 文子・中村 英彦・岡野 友恵

◆記念誌部会

部長 野坂 正己・中川 陽介・阿部菜穂美・和賀圭一郎

◇イベント部会

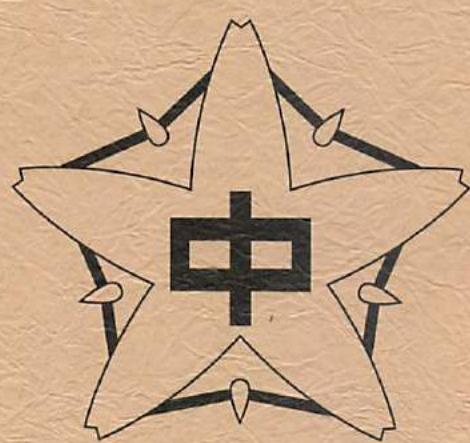
部長 笠松 英治・谷藤 英明・高橋 洋

函館市立五稜中学校 開校記念誌

五 種

平成27年10月31日発行

- ◆発 行／函館市立五稜中学校
函館市田家町5番17号 電話(0138)41-3458
- ◆印 刷／株式会社 島本印刷
函館市末広町13番27号 電話(0138)26-1201



平成27年10月31日

ご臨席賜りました皆様へ

函館市立五稜中学校閉校事業実行委員会

委員長 田 中 慎 一

函館市立五稜中学校

校 長 小 川 弘

函館市立五稜中学校閉校式ご臨席のお礼

謹啓

錦秋の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より、本校の教育活動に対し、特段のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、本日はご多用の中、函館市立五稜中学校閉校式、および思い出を語る会へのご臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。皆様にご支援ご協力を賜りましたおかげで、無事に本日を迎えることができました。

長きにわたり、函館市立五稜中学校を支えてくださいました多くの方々に敬意を表するとともに、皆様と歴史を振り返り、思い出を深く心に刻むことができますことに感謝申し上げます。

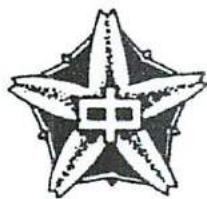
本校の歴史は3月で幕を閉じ、今後は4月に開校する函館市立五稜郭中学校として新しい歴史が始まります。今後も皆様の変わらぬお力添えをいただければ幸いでございます。

最後に、皆様のますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、略儀ではございますが、書面をもちましてお礼に代えさせていただきます。

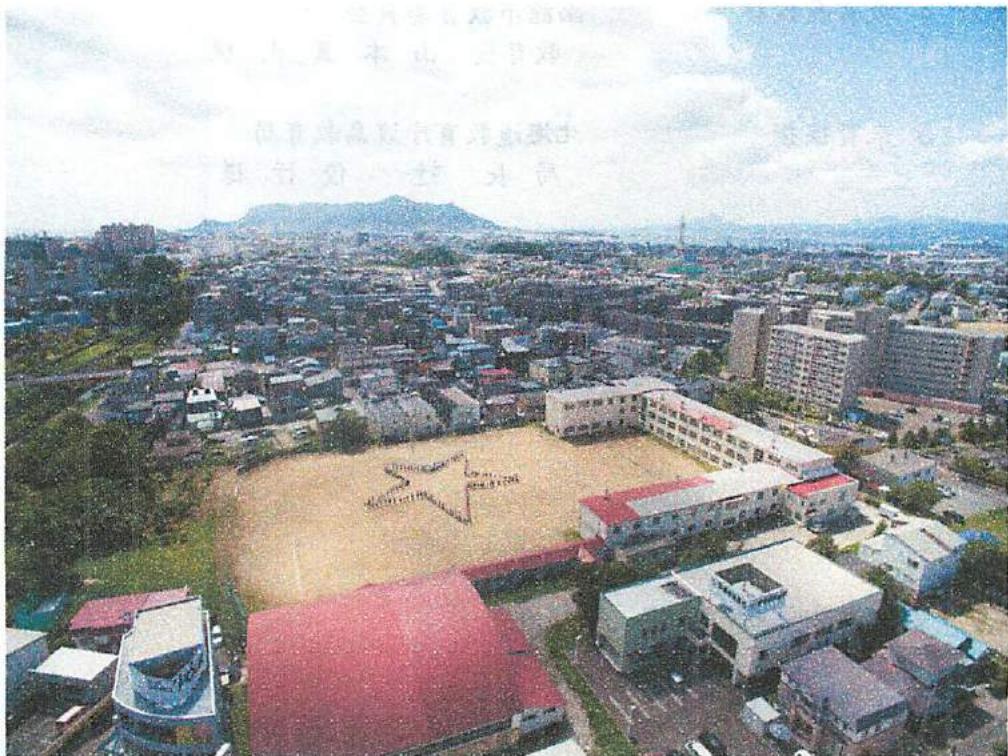
本日は誠にありがとうございました。

謹白

函館市立五稜中学校



閉校式



とき 平成27年10月31日(土) 10時30分～
ところ 函館市立五稜中学校体育館

閉校式次第

1 開会の辞

2 国歌齊唱

3 学校長式辞

函館市立五稜中学校

校長 小川 弘

4 教育長挨拶

函館市教育委員会

教育長 山本 真也 様

5 来賓挨拶

北海道教育庁渡島教育局

局長 辻 俊行 様

6 実行委員長挨拶

函館市立五稜中学校閉校事業実行委員会

委員長 田中慎一

7 生徒代表挨拶

五稜中学校生徒会

前期会長 工藤かれん

8 校旗返納

<司会 前期生徒会総務>

9 五稜中学校のあゆみ

10 五稜三訓唱和

11 校歌合唱

ピアノ:山崎 楽々(3年)

12 記念演奏

ヴァイオリン:トマス ソーントン(本校AET)

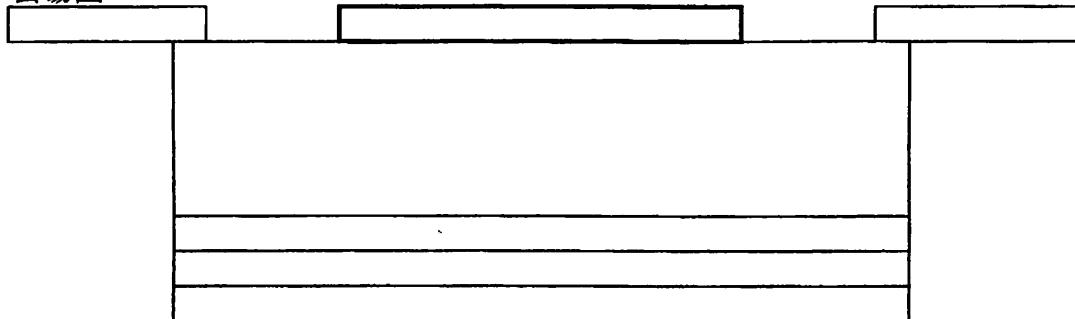
ピアノ:松原芽(2年)

13 記念合唱

ピアノ:齊藤和(3年)

14 閉式の辞

会場図



○司会

校長

実行委員長

副実行委員長

副実行委員長

教職員

生徒席

町会長・評議員様

PTA三役

中学校長会様

辻 俊行 様
山本 真也 様
金山 正智 様
小山みゆき 様
岡野 伸二 様
毛利 繁和 様
戸澤 和彦 様

旧 管理職様

旧 PTA三役様

近隣校長様

旧 職員様

同窓生(高校生)

保護者・同窓生の皆様
(出来るだけ端からつめてお座りください)

五稜中学校校歌

作詞 小島 昌平
作曲 酒井 武雄

一
ひんがしに 古城いだきて
たたなわる 五稜が丘は

若人の 息吹に満ちぬ

水上に ふるきをたずね

新しき 光に立ちて

大いなる 力伸ばさん

二
さくら花 しるしと仰ぎ
友がきの 堅く結びて

うちならず 自主の鐘の音

ひとすじに まことを窮め

築きゆく 理想の姿

ああとわに われら栄えあれ

（昭和三十八年十月十日制定）

群青

福島県南相馬市立小高中学校
平成24年度卒業生・校正小田美樹

ああ あの町で生まれて
君と出会い
たくさんの思い抱いて
一緒に時間を過ごしたね
今 旅立つ日
見える景色は違っても
遠い場所で 君も同じ空
きっと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火
いつでも君がいたね
あたりまえが 幸せと知った
自転車をこいで 君といった海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が
僕らの中を過ぎて
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声
響け 遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な すべてに届け
涙のあとにも 見上げた夜空に
希望が光ってるよ
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう
あの町で会おう
僕らの約束は
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で…